

同窓会報



鳥羽商船同窓会

〒517-8501
三重県鳥羽市池上町1番1号
TEL (0599) 25-8045
FAX (0599) 25-8128
携帯電話 090-7612-2979
振替口座番号 00850-6-846



!! ありがとう !!

三代目鳥羽丸

◆ 目 次 ◆

同窓会会長・学校長 挨拶…………… 2	学校だより…………… 14
令和5年度 本部会務報告…………… 4	支部だより…………… 16
令和6年度 本部会務計画…………… 4	投稿記事…………… 18
令和5年度 会計報告…………… 5	同期会・同窓会…………… 18
令和6年度 予算…………… 5	特集「我等! 鳥羽商船」…………… 19
令和6年度 同窓会役員・理事…………… 6	特集 三代目 鳥羽丸…………… 22
同窓会の活動…………… 6	事務局だより…………… 24
同窓会設立100周年記念事業について… 9	会員の異動等…………… 25
NPO法人故郷の海を愛する会の報告… 12	寄付金・同窓会費納入一覧…………… 26

同窓会会長・学校長挨拶

日本人の使命

同窓会会長 **菅沼 延之**
S48N(88期)



本年も余すところ、2カ月となりましたが、今年ほど早く1年を感じられた事は有りませんでした。振り返りますと、内外をめぐる政治的課題が散逸し、日本国自体の舵取りも思うままにならぬ印象をぬぐい切れないと思うのは、私だけではないと思います。

今後の行く末は、今次誕生の政権に委ねられますが、総選挙の為に乱立した政策を国民のより良い幸福の為に収斂し、もって本来の「日本」を取り戻していただきたいと切に祈るばかりであります。

さて、「日本を取り戻す」というアピールを掲げた政党もありましたが、「本来の日本」とは何を指すのかご一緒に考えを巡らせてみたいと思います。

忘れてはならない東日本大震災の際、世界中より絶賛された「被災者が秩序を守り肅々と穏やかに行動する様」は、嘆き悲しむばかりの表現ばかりで伝えられる他国の状況とは、明らかに違う点でありましょう。漢字を使用する国や地域では、「大和民族が精神未だ健在なり」と見出しをつけて報道された事も聞きおよんでいます。「国民が総じて高貴な精神性を持ち、永い歴史と独自の文化を持った国である」というのが、国際社会の日本に対する見方ですが、果たして我々は、この世界の注目に対し、個人レベルでどの程度意識を置きながら行動しているか、国全体の資質を高めるには、この「草の根意識」こそ大切であると思われ、己が道の信ずるところに従い活動する事が我々日本人の使命であると確言しております。

思えば、武家社会隆盛の折、見い出された武士道精神が美德とされ、庶衆の修養にも影響を及ぼし、国民全体がその資質や精神性を高めて近代日本の礎を作りました。

近代から現代にかけては、戦後の価値観変動もありましたが、現代でも「日本の美德」は数多く見受けられます。

公共スペースの綺麗さ、料理や芸術の繊細さ、忘れ物がそのまま届けられ、約束を守り時間に正確、職人芸の見事さなど枚挙にいとまがありません。私は新幹線で移動することも多いのですが、例えば東京から名古屋までの1時間40分あまり、名古屋駅到着時分の平均誤差は僅か3秒であると言われます。途中、1時間半ほどのノンストップ運転をする為、相当な集中力で運転にあたっている事と思いますが、我が国では定時刻通り遅れずに運行されるのは当たり前のものであり、こうした考察で初めて運転技量

の凄さ、まさに職人芸を思い知らされます。

あるいは、こうした感謝すべき「当たり前の凄さ」を世界にあまねく伝えてゆくのも我々日本人の使命であるのではないのでしょうか。

大正11年、かのアルベルト・アインシュタイン博士が来日された際、その旅の終わりに日本に託したとされるメッセージを引用します。(以下引用)

近代日本の発達ほど世界を驚かしたものは無い。その驚異的發展には他の国と違ったなものかなくてはならない。果たせるかなこの国の歴史がそれである。

この長い歴史を通じて万世一系の天皇を載いて来たという国体をもっていることが、それこそ今日の日本をあらしめたのである。

(中略)

最後には鬭争に疲れる時が来るだろう。このとき人類は必ず真の平和を求めて世界の盟主を挙げなければならない時が来るに違いない。

その世界の盟主こそは武力や金の力ではなく、あらゆる国の歴史を超越した、世界で最も古くかつ尊い家柄でなくてはならない。

アインシュタイン博士は、「我々は神に感謝する、神が我々人類に日本という国を作って置いてくれたことを」と結んでいます。現代に生きる我々はこの期待を裏切ることなく綿々と続く日本という国柄を後世に伝えていかなければなりません。そして、各々がそれぞれの持ち場で、国内の「眠れるサムライ精神」を呼び覚まし世界に羽ばたかせ、今一度「本来の日本を」国内外に示すべく、ともに精進を重ねて参りましょう。

明年いよいよ、母校は新鳥羽丸の進水、創基150周年、同窓会は設立100周年の大慶事の時を迎えます。皆様におかれましてもお体ご自愛の上、日々の鍛錬に励まれますようご案内申し上げます。

学校長挨拶

鳥羽商船高等専門学校

校長 **古山 雄一**



2024年4月1日に鳥羽商船高等専門学校長として着任しました古山雄一です。鳥羽商船同窓会の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

着任前は鳥羽と同様の港町である神戸で暮らしていました。神戸と違い、鳥羽ははるかに空気がきれいで、また伊勢志摩国立公園内に本校が在り、風光

明媚な地で仕事を行うことができ、幸せです。4月5日(金)の校長として初めての入学式では、新入生よりも私の方が緊張していたと思います。鳥羽はウグイスがたくさん生息しているようで、本校校内の桜の木々からウグイスの3重奏、4重奏が聞こえ、思わず足を止めてそれら奏者たちの姿を探しました。それらの姿を見ることはできませんでしたが、緊張していた私の気持ちを和らげ、そしてこの鳥羽の地に来たことを歓迎してくれているように感じました。ウグイスを春告鳥とも記すようですが、春の到来に気づき、また、あれほど鮮やかで美しい鳥の歌声を聞くことができ、心が洗われる気持ちになったことを思い出します。また、夜、学校から退出して帰る際、その夜空に三日月が美しく浮かび上がっています。空がきれいで清浄だと、このように月も全く違って見えることを知りました。鳥羽の方々には当たり前のことかもしれませんが、私にとっては、これら鳥羽の情景をととても気に入っています。

6月9日(日)に鳥羽商船同窓会総会が名古屋駅の名鉄グランドホテルにて開催され、この会に校長としてご招待いただきました。90名近くの同窓会会員の方々が参加され、その母校を想う熱気に終始、圧倒されて、あまり何も覚えていません。ただ、皆様の強い母校愛を感じ取ることはできました。それらのお気持ちに、本当にありがたいことと感謝しています。

6月14日(金)、本校の練習船3代目鳥羽丸とのお別れの式典を開催しました。多くの本校学生、教職員、同窓会の方々、その他関係者の皆様が本式典に参加し、またリモートでの参加者も含めて、本船にお別れを伝えてくれました。3代目鳥羽丸には30年の間、本校学生の実習でお世話になり、延べ1000名以上の学生の実習を行っていただきました。今年度4月に校長として赴任する前の3月18日(月)に前任の和泉先生のもとを訪れた際に、本船を案内していただき、齋心船長に船内見学をさせていただきました。この日が初めての本船と出合った日でした。そして、約3か月後のお別れの式典で今度は運航する本船に初めて乗船させていただきました。大野前機関長の案内で、再度、機関室も含めて船内見学をさせていただきました。最終航海は、学生と船員、教職員、合わせて約60人を乗せて出航し、1時間半ほどかけて伊勢湾内を巡りました。この日がお別れの式典と察知したのか、伊勢湾も穏やかな海で揺れることもなく、楽しくも寂しい最後の航海でした。本船は学生の実習だけではなく、いろいろなイベントで本校の顔として活躍してくれました。これらイベントがきっかけで本校に入学してくれた学生、卒業生もいるのではないのでしょうか。また本船を利用したイベントで船や海に興味を持ってくれた人達も多いと思います。式典に本校まで来ていただき、参加してくれた方々、またリモートでこの式典に参加してくれた方々の中には本船への思いの深い方もおられたことでしょう。就職した後、かつての練習船鳥羽丸(初代もしくは2代目)にフィリピンのマニラ湾

で再び出会って、懐かしい気持ちになったと語ってくれた本校卒業生の方もおられました。皆様、それぞれにお世話になった練習船のことを忘れずに記憶の中に留めてくれているということです。この日の式典終了後、3代目鳥羽丸へ、声をかけました。本校学生、同窓会、教職員、その他関係者の皆様に多くの楽しい思い出を与您にいただき、また30年間の長きにわたるご活躍、本当にご苦労様でした。ありがとうございました。

皆様方はすでにご存じのとおり、本校は全国にある5商船高専の一つであり、それらの中でも唯一広い太平洋に面した地域に練習船の母港を持つ学校です。2024年10月8日(火)岡山の玉野にて最新の設備を持つ新練習船である4代目鳥羽丸の命名進水式の式典が行われます。また、2025年3月に本校母港に4代目鳥羽丸を迎え入れる予定になっています。未来の運航技術につながるような、より高度の運航技術が展開できる装備を有した練習船がようやく活用できることに期待が大きく膨らむ思いです。商船学科は船員養成が目的の一つであり、本学科のほとんどの卒業生達は海運関連に就職して、船、海において活躍しています。また、情報機械システム工学科の学生は急速に進展する情報技術に対応するべく、情報工学の最先端の技術を学んだ技術者として育成されており、本学科の卒業生達は幅広い職種において活躍しています。2025年度からは、高度情報工学コースを新設し、定員も20名増の100名の学科として、さらなる飛躍を目指します。

前任の和泉先生の話に依りますと、本校は1875(明治8)年から数えて、来年の2025年で創基150周年を迎えることとなります。いわゆる商船学校として日本で一番古い創設の学校です。150年という長い年月を考える時、明治時代から現在に至るまでの様々な出来事を経て、現在の本校が在ります。ここ鳥羽の地に本校が在ることは決して当たり前のことではなく、本校同窓会の皆様並びに鳥羽の人達をはじめとして、三重県志摩半島の皆様の深いご理解、ご支援のもとで成り立っているものと考えています。創基150周年を迎えることになり、あらためて皆様方に深く感謝いたします。今後も鳥羽商船高等専門学校がこの地に在るためには、新しい技術等への対応力を持つための変化を恐れず、またこれと合わせて古き良き伝統を守るという2本柱での人材育成が必要です。有為な人材を社会へ輩出し続ける限り、本校の社会的存在意義は大きいものと信じています。



本部報告

令和5年度 本省会務報告

①会議

- イ) ロ) ハ) 令和5年6月17日
於 東京 日本外国特派員協会 (FCCJ)
- イ) 理事会 10:00~11:30
★出席理事25名・会計監査2名、100周年特別理事1名 委任状27名
- ロ) 総会 12:00~12:30
★出席会員数56名 来賓4名
- ハ) 懇親会 12:30~14:30
★出席会員数55名 来賓4名
- ニ) 支部長会 未開催
- ホ) 令和6年2月21日
名古屋総会準備会議、同窓会設立100周年記念事業準備会議

②母校関連会議・式典出席

- イ) 令和5年6月23日 鳥羽商船高専連携協力会総会
- ロ) 令和5年11月5日 「高専の森」植樹式
- ハ) 令和5年12月8日 練習船鳥羽丸代船起工式
- ニ) 令和6年1月15日 母校創基150周年事業委員会第2回
- ホ) 令和6年3月1日 母校商船ハッカソン(母校学生研究発表会)
- ヘ) 令和6年3月5日 母校運営諮問会議
- ト) 令和6年3月19日 和泉校長講演会・送別会
- チ) 令和6年3月22日 母校地域連携協力会第3回

③会報発行

令和5年10月3日 会員約3,500名に発送

④事務局主要活動

- 4月18日 総会案内発送作業
事務局、伊勢志摩支部会員11名、故郷の海を愛する会事務局、学生ボランティア参加
会員約3,500名に発送
- 5月13日 攻玉社同窓会総会
水野東日本支部長 出席
- 5月24日 戦没・殉職船員追悼式
水野東日本支部長 出席
- 6月17日 理事会・総会・懇親会
東日本支部主催
- 6月中旬～ 同窓会報発行準備着手
事務局、本部役員、伊勢志摩支部会員

7月～12月 故郷の海を愛する会イベント開催

詳細は12～13頁参照

9月22日 卒業式(本科N、E)修了式(専攻科 海事)

菅沼会長、伊勢志摩支部理事、事務局 式参列
同窓会の活動紹介と資格取得奨励授与式

1級海技士資格取得者1名、TOEIC成績優秀者1名 於 伊勢市 いせトピア

10月3日 同窓会報発送作業

事務局、伊勢志摩支部会員11名、ご家族、同僚の方、故郷の海を愛する会事務局、学生ボランティア参加

12月2日 課外活動支援金・報奨金授与式

菅沼会長、三井伊勢志摩支部長、伊勢志摩支部会員

12月2、3日 母校海学祭

事務局、伊勢志摩支部会員 珈琲店出店

同窓会活動と故郷の海を愛する会の活動紹介

令和6年2月～名古屋総会 準備作業

事務局、山口中部支部長 打ち合わせ

3月15日卒業式(本科J)修了式(専攻科 生産)

菅沼会長、伊勢志摩支部理事、事務局 式参列
於 鳥羽市 鳥羽市民体育館サブアリーナ

令和6年度 本省会務計画

令和6年4月～令和7年3月

- 4月～ 総会案内 印刷準備・封入・発送
- 4月～ 理事会・総会会議資料作成
- 4月～ 同窓会設立100周年記念事業 準備
- 5月～ 理事会案内 印刷準備・封入・発送
- 5月11日 攻玉社同窓会総会出席
- 5月15日 戦没・殉職船員追悼式
- 6月9日 理事会・総会・懇親会(名鉄グランドホテル)
- 6月～ 同窓会報発行準備
- 7月～12月 故郷の海を愛する会イベント開催
詳細は12～13頁参照

8月以降の活動計画

- 8月～ 同窓会報編集作業
- 8月～ 百周年記念誌編集会議、校正作業
- 9月20日 卒業式(本科N、E)修了式(専攻科 海事)参列、同窓会の活動紹介と資格取得奨励授与式、卒業祝賀パーティ開催
- 10月1日 同窓会報発行・発送作業(3,500通)
- 11月30日 課外活動支援金・報奨金授与
- 11月30日、12月1日 海学祭支援、同窓会の出店
- 3月19日 卒業式(本科J)修了式(専攻科 生産)参列、同窓会の活動紹介と資格取得奨励授与式、卒業祝賀パーティ開催
- 3月～ 会計決算案・次年度予算案作成

令和5年度 会計報告

自 令和5年4月1日 ～ 至 令和6年3月31日

現金・預金

※比較増減＝期末－期首

勘定科目	期首金額	収入	支出	期末金額	比較増減
現金	0			0	0
普通預金計	2,451,623	10,160,947	10,252,100	2,360,470	-91,153
定期預金計	16,420,850	8,027,361	8,023,791	16,424,420	3,570
現金・預金合計	18,872,473	18,188,308	18,275,891	18,784,890	-87,583

※収入支出の金額は振替入出金の金額が含まれており実際の入出金金額より大きい金額になっています。

収入の部

※比較増減＝決算金額－予算

科目・内訳	5年度予算	決算金額	比較増減
会費	2,130,000	1,816,000	-314,000
終身会費	700,000	820,000	120,000
寄付金収入	2,690,000	2,425,035	-264,965
スポンサー広告収入	180,000	180,000	0
雑収入	809,900	569,900	-240,000
受取利息	100	3,582	3,482
預金の取り崩し	0	0	0
収入合計	6,510,000	5,814,517	-695,483

支出の部

科目・内訳	5年度予算	決算金額	比較増減
負担金	600,000	552,392	47,608
総会費	1,640,000	1,343,677	296,323
会報・会員名簿	980,000	989,188	-9,188
対外活動費	164,000	126,000	38,000
支部活動費	527,000	496,500	30,500
旅費交通費	780,000	701,000	79,000
事務消耗品費	324,500	274,018	50,482
会議費	20,000	0	20,000
会務運営費	360,000	338,450	21,550
外部委託費	690,000	690,000	0
予備費	300,000	309,000	-9,000
雑支出	35,000	14,867	20,133
郵貯センター払込手数料	89,500	67,008	22,492
支出合計	6,510,000	5,902,100	-607,900

今年の収支の総資産は87,583円の減少に収まりました。しかし、比較的わずかな赤字で収まったのは同窓会設立100周年や母校創基150周年、新鳥羽丸竣工などの慶事が重なり、同窓会への関心が深まったための一時的な現象ではないかと思っています。同窓会は会員皆様の会費とご寄付で運営されています。今後、資産を毎年減らしていくのは目に見えています。同窓会、永代存続のため、将来に向けてそろそろご検討を始めていただきたいと思います。

監査報告

令和5年度期初、期末の銀行等の確認を行い、今年度の収支に関しては領収書、各銀行などの出納記録と照合して監査した結果、正確かつ適正であったことを認めます。

令和6年5月14日

会計監査 竹川 俊幸

木下 勝



令和6年度 予算

自 令和6年4月1日 ～ 至 令和7年3月31日

収入の部

比較増減＝令和5年予算－前年実績

科目・内訳	5年度実績	6年度予算	増減比較
会費	1,816,000	2,200,000	384,000
終身会費	820,000	800,000	-20,000
寄付金収入	2,425,035	4,037,000	1,611,965
スポンサー広告収入	180,000	180,000	0
雑収入	569,900	720,000	150,100
受取利息	3,582	100	-3,482
預金取り崩し	0	0	0
収入合計	5,814,517	7,937,100	2,122,583

支出の部

科目・内訳	5年度実績	6年度予算	増減比較
母校支援費 前年度まで【負担金】 から科目名変更	502,392	1,000,000	497,608
総会費	1,343,677	1,780,000	436,323
会報・会員名簿	989,188	1,160,000	170,812
対外活動費	176,000	214,000	38,000
支部活動費	496,500	572,000	75,500
旅費交通費	701,000	550,000	-151,000
事務消耗品費	274,018	331,100	57,082
会議費	0	20,000	20,000
会務運営費	338,450	800,000	461,550
外部委託費	690,000	690,000	0
予備費	309,000	700,000	391,000
雑支出	14,867	20,000	5,133
郵貯センター 払込手数料	67,008	100,000	32,992
支出合計	5,902,100	7,937,100	2,002,008

令和6年度 同窓会役員・理事

※ 黄色は新任 ※ 灰色は退任 ※ ()内数は前回数

本部

会長	1	菅沼 延之	S48N	事務局長	1	江崎 隆夫	S44E
副会長 (3)		田中 潔	S52N	事務局 (11)		武部二三男	S38N
		加塚 伸吾	S52E			溝井 昇	S42E
		江崎 修央	H4M			三井 健次	S43E
相談役 (3)		菅原 昌男	S33N			濱地 安実	S47E
		藤本 昌之	S42N			山口 伸輔	S48N
		習田 誠至	S55N			江尻 潜	S48E
会計	1	中井 一文	H16I			木下 勝	S49E
会計監査 (2)		竹川 俊幸	S42E			丸島 慶久	S50E
		木下 勝	S49E			畑 辰幸	S51N
名誉顧問 (3)		落合 弘明	元同窓会長			高木 宏明	S52E
		菱田 司	元同窓会長			今西 広樹	S52E
		田中 三郎	前同窓会長		北端 大志	H8N	
特別顧問 (3)		古山 雄一	学校長	学校連絡 (2)		小島 智恵	H14N
		和泉 充	学校長			山野 武彦	H10E
		江崎 修央	副校長			谷水 聖奈	H27N
		喜井 健二	事務部長				

支部 (理事総数49名)

東日本支部 11 (11)				伊勢志摩支部 15 (16)			
支部長	水野 博之	S48N		支部長	三井 健次	S43E	
理 事	岩田 仁	S38E			溝井 昇	S42E	
	福山 道夫	S41N			江崎 隆夫	S44E	
	加藤 信一	S42E			濱地 安実	S47E	
	大橋 泰夫	S48N			山口 伸輔	S48N	
	奥田 宣夫	S48E			畑 辰幸	S51N	
	菅原 秀樹	S51N			高木 宏明	S52E	
	稲益 義久	S51N		理 事	塩野 明俊	S56E	
	小林 康広	S51N			齋心 俊憲	H1N	
	星野 芳昭	S52E			出江 幸重	H3M	
	長澤 山泰	S57E			江崎 修央	H4M	
	鈴鹿 文彦	S63N			北端 大志	H8N	
小西 智子	H16N			橋本 典久	H8E		
中部支部 6 (6)					山野 武彦	H10E	
支部長	山口 淳	S61N			小島 智恵	H14N	
理 事	小林 正司	S43N			中井 一文	H16I	
	宗接万太郎	S48N		関西支部 8 (8)			
	菅沼 延之	S48N		支部長	坂田 守	S56N	
	加塚 伸吾	S52E			村木 国夫	S48N	
山川 博之	S53N			田中 潔	S52N		
四日市支部 6 (6)					村田 佳久	S55N	
支部長	待井 健司	H2N		理 事	国安 政幸	S58N	
理 事	西村 譲治	S59E			山本 和之	S59N	
	西井 育央	S61E			清家 将之	S60N	
	伊藤 英樹	H4E			福田 美和	H7N	
	相良 球一	H6N		西日本支部 2 (2)			
西村 崇	H6I		支部長	中野 正義	S41N		
			理 事	神子 功	S48E		
百周年特別理事 1 (1)							
理 事	大倉 明人	S48N					

同窓会の活動 (暦順に掲載)

同窓会の活動は抜粋してご紹介しています。事務局では、日々の活動を同窓会HPに掲載しています。その他の写真や記事も是非ご覧ください。
tobacmtdousoukai.sakura.ne.jp



令和5年度卒業式(本科N、E) 修了式(専攻科 海事) 挙行

令和5年9月22日(金)、伊勢市いせトピアにおいて今年度商船学科航海コース14名、機関コース14名、及び専攻科海事システム学専攻4名の卒業式・修了式が挙行されました。進路は航海、機関コース、専攻科合わせて21名が海上職、陸上職4名、進学6名で近年は海上職へ就職する生徒が多く鳥羽商船の面目躍如です。

今年の式はやっとコロナ前に戻り、来賓、ご父兄、教官方も人数制限は撤廃され、久々に多数の皆様に見送られ、若者たちは元気に船出しました。

同窓会からは菅沼会長はじめ、伊勢志摩支部理事から三井支部長、溝井、江崎、濱地、木下、高木の諸兄が出席しました。式前に同窓会紹介のプレゼンテーションと資格取得奨励授与式を行い、卒業後の同窓会入会を歓迎し、未来の同窓会活動への協力と参加をお願いしました。若者たちの今後の活躍を祈念いたします。



資格取得奨励授与式



同窓会プレゼンテーション



菅沼会長挨拶

同窓会報 発送作業

令和5年10月3日(火)、同窓会員3,436名に本年度『同窓会報』を発送いたしました。封入と発送作業は、伊勢志摩支部の有志11名とご家族、同僚の方、商船学科の学生たち、故郷の海を愛する会事務局と一緒にいたしました。皆様のご協力に感謝いたします。

同窓会報がお手元に届いていない方がみえましたら、事務局までメールにてご連絡ください。お送りいたします。



「高専の森」植樹式挙行

令和5年11月5日(日)、母校百周年記念館横の庭園において、高専制度創設60周年を記念して植樹式が挙行されました。高専60周年を節目として、高専が未来に向けてますます成長することを祈念し、記

念樹を植樹するイベント「高専の森」を全高専にて実施しています。植樹する樹木は鳥羽市の木に指定されている「ヤマトタチバナ」です。

植樹式では、和泉校長による挨拶後、鈴木英敬衆議院議員、赤池誠章参議院議員、中村欣一郎鳥羽市長、全船協広重康成会長から祝辞をいただきました。

百周年記念館横の「高専の森」は元気な木々が生い茂り近藤真琴翁の記念碑、山口誓子の句の100周年記念碑、そして平成30年に建立した皇太子殿下行啓記念碑を益々際立たせています。



課外活動支援金、報奨金 授与式

令和5年12月2日(土) 海学祭初日

課外活動支援金、報奨金の授与式が執り行われました。同窓会では、在校生の課外活動に対し費用の一部を支援するほか、試合等で顕著な成績を残した学生達に報奨金を授与しています。

毎年海学祭の一日目に授与式を行っています。今後も学生の皆さんのサポートをしていきたいと思っております。



第58回 海学祭

令和5年12月2、3日(土、日) 今年の海学祭は、一日目から一般公開が行われ、同窓会の珈琲店も二日間出店いたしました。保護者様や地域の方々、同窓生が多数お立ち寄りくださりありがとうございます。お子様のお話や同窓生の在校中の昔話を通じて今と昔で交流し合えたことをうれしく思います。楽しい二日間を過ごせ、お礼申し上げます。

例年通り、同窓の村田珈琲さん協力のもと、珈琲店をオープンし、百周年記念館内の百周年記念資料室を案内しました。他には、同窓会で保管している懐かしい記念品グッズの紹介をし、保護者の方々や来場された同窓の皆さんとの交流を楽しみました。

学生会、学生の皆様及び教職員の皆様、大盛況の海学祭、おめでとうございます。



準備から開催まで大変お疲れ様でした。

伝統が後輩たちに受け継がれ、皆の記憶に残る海学祭になったことうれしく思います。今後も頑張っ

てください。応援しています。

学生会が作成した第58回海学祭 公式サイトをご紹介します。

<https://gakuseikai.toba-cmt.ac.jp/kaigakusai/>



練習船鳥羽丸代船起工式 挙行

令和5年12月8日(金)、三菱重工マリタイムシステムズ株式会社(岡山県玉野市)において、練習船鳥羽丸代船起工式が挙行され、菅沼会長が出席しました。同船は令和6年10月に進水し、令和7年3月に引き渡される予定です。

令和5年度卒業式(本科J) 修了式(専攻科 生産) 挙行

令和6年3月15日(金)、工業系統合後初の情報機械システム工学科 卒業式が挙行されました。

小雨模様の中、多くの父兄の皆様や教職員、来賓に見送られ若鳥たち本科80名、専攻科9名が飛び立ちました。大学進学13名、本校専攻科進学6名、就職70名、全員の進路が決定しています。今年の求人は、情報機械システム工学科 約570件、生産システム工学専攻 約490件、相変わらず抜群の人気を誇っています。

和泉校長は退任の為、今回が最後の式辞となり、卒業生全員に卒業証書と表彰状を手渡されました。

祝辞は菅沼延之同窓会長、鳥羽市長代理の小竹篤教育長、野村保夫県議が力強い励ましの言葉で送り出しました。

同窓会は君たちを応援します。頑張ってください。



和泉充校長送別会

令和6年3月19日(火)、今月退任される和泉校長の最後の講演が午後からメディアホールで開催され、多くの教職員と地域連携協力会会員、そして同窓会から菅沼延之会長と江崎隆夫事務局長が参加しました。

和泉校長はコロナ禍真っ最中に赴任されあっという間に3年の任期を終えました。在任中は令和7年の母校創基150周年事業に向けてのスタートアップ、地域連携協力会の発足、練習船新鳥羽丸建造と浮桟橋の新替えの予算獲得、母校の高度情報化教育育成の指定校採択など数多くの課題を進展、解決に導いてくれました。まだまだ多くの懸案を抱える中で退任は同窓会としても残念でなりません。

校長の最後の挨拶で心に残ったのは教職員に対



して「決して井の中の蛙になるな」外部との交流をもっと盛んにして交流を深めてほしい、との言葉でした。私達同窓会も母校との交流を密にして期待にこたえ、互いに発展したいと思います。

送別の懇親会は、鳥羽市内の戸田屋旅館で行われました。80名くらいの参加でしたが宴会形式の母校の送別会は初めての経験で教職員、事務職員の意外な一面を見て楽しい時間を過ごしました。

和泉校長は今後2年間母校特命教授として月数回は母校に通い、神戸大学から赴任される新校長古山雄一さんと共に事業が山積の母校の運営に協力されるそうです。健康に留意し、これからも母校のために頑張ってください。

令和6年度 総会案内発送

令和6年4月16日(火)、住所登録のある3,464名の会員に総会案内を発送いたしました。

伊勢志摩支部有志 三井建次支部長(S43E)以下、大西彰夫氏(S36N)、溝井昇氏(S42E)、村田健次氏(S43E)、武田雄三氏(S44N)、竹内大助氏(S44E)、木下勝氏(S49E)、丸島慶久氏(S50E)、畑辰幸氏(S51N)、高木宏明氏(S52E)、今西広樹氏(S52E)、江崎隆夫事務局長(S44E)、事務局員、その他に在学生と保護者、故郷の海を愛する会事務局が発送作業に参加しました。ありがとうございました。



尚、総会案内がお手元に届かない場合は、お手数ですがメール連絡をお願いいたします。

令和6年度 理事会・総会・懇親会 開催

令和6年6月9日(日)、名古屋駅前名鉄グランドホテルに於いて開催されました。

正会員86名と来賓3名(母校古山雄一新校長、攻玉社同窓会田村保文事務局長、森正昭監事)の出席を得て盛大に開催されました。

理事会は委任状を含め48名中、41名(22名の出席、委任状19名)で議事を審議し承認をいただきました。

会長挨拶は来年度母校創基150周年と同窓会設立100周年、練習船鳥羽丸の建造の慶事が重なり、皆様に多大なご寄付を賜ったお礼と来年は素晴らしい新鳥羽丸をこぞって見学してくださいとの言葉がありました。

懇親会は船歌集「思い出の鳥羽商船」のDVDを放映しながらの懇親会で久しぶりの再会に喜びの笑顔と談笑で満ち溢れていました。

宴の最後での大先輩の岩崎敏壽(S35N)さんのあいさつの中で岩崎さんが在学中に初代鳥羽丸の船名募集選考委員の一員として加わり今の鳥羽丸に決まった思い出を話されました。今回の新鳥羽丸の船名については菅沼会長もぜひ公募をと母校に要望していましたが残念ながら時すでに遅く、船名は鳥羽丸に決定していました。

来年の総会は大阪の予定でしたが、皆さん新鳥羽丸を見学してくださいということで、鳥羽の開催になります。伊勢志摩支部長三井健次(43E)が来年の再会を祈念して万歳三唱で締めくくりました。



理事会



総会



懇親会



次回開催地

三井伊勢志摩支部長 万歳

母校古山雄一新校長、攻玉社同窓会田村保文事務局長、森正昭監事と菅沼会長はじめ鳥羽商船同窓会の皆様



同窓会主催

三代目鳥羽丸 離岸式

令和6年6月17日(月)、同窓会主催にて三代目鳥羽丸の離岸式を執り行いました。

30年間母校学生たちの実習を見守り、多くの学生を見送ってきたマザーシップ鳥羽丸が、17日17:00に次の活躍の場へと旅立ちました。

14日(金)には母校による退役セレモニーも行われ、多くの学生や教職員、関係者とラスト航海を終えました。

離岸式は、同窓会菅沼会長が発起人となり、三代目鳥羽丸が係船される際にお見送りしたいとの想いを受け計画いたしました。その想いを、先日の同窓会総会にて会員の皆様から提案させていただいたところ、皆様から多くのお心遣いを頂戴し、離岸式を行うことができました。感謝申し上げます。

当日は、愛知県で活躍されているトランペッターの大和さんをお招きし、近藤真琴翁へのご挨拶に慰霊碑前で“校歌”、離岸式にて“国家”、“校歌”、“蛍の光”を演奏いただきました。その際の映像はホームページで公開しております。ぜひご覧ください。

令和7年、四代目鳥羽丸が登場し、新たなマザーシップとして母校学生の船出を見守るでしょう。





同窓会設立100周年記念事業について

以下、3つの記念事業を予定しています。

- 1) 練習帆船模型「あまき」修復
- 2) 百周年記念誌発行
- 3) 同窓会設立100周年記念式典(仮名)
鳥羽商船高専創基150周年記念
—高専創立60周年— 共同開催
令和7年9月13日 土曜日

昨年の同窓会報にて“練習帆船模型「あまき」修復”プロジェクトについてご紹介いたしました。今年はその続編といたしまして「あまき」修復の進捗と百周年記念誌の制作進捗について各委員長よりご紹介させていただきます。

また、記念式典は令和7年9月13日に母校と共催で行い、式典会場は“鳥羽市民体育館 サブアリーナ”、パーティ会場は“鳥羽国際ホテル”を予定しております。

1) 練習帆船模型「あまき」修復

練習帆船模型「あまき」修復プロジェクトリーダー
竹内 大助 (S44E)

令和5年12月に同窓会のホームページにその3を報告しましたが、早くも8か月が経ち、再度中間報告をします。

1. 船体の塗装、配色

幽霊船の100年の埃の除去にはエアコン掃除用スプレーが良いかと思いつき、これは有効で索具類の汚れがかなり落ちました。(精密な仕上がりなので切れていなければそのまま維持)。すると年月が削り上げた風合がととてもよく、ペンキ仕上げのつり、とした表面とは相容れません。又、無垢の黒杉材で削り上げた船体は素晴らしく、これを生かすべく木目の映える仕上げとします。帆船模型はペン仕上げが一般的ですが同窓会設立100周年記念事業に相応しいと思うこの方法でやらせてもらいます。

2. 船名の記入

この模型には写真1のように天城丸と記されていましたが。しかし運輸省の船名録(写真2)には あまき と記されています。軍艦と同じではおこがましいので、“かな”表示にしたのでしょうか。では模型には何故漢字で“丸”付きなのか?察するに、建造中には「天城丸」で通称していて気軽に手書きしたのだと思います。この模型は造船所が、こういう装備でどうでしょうか、と帆装設備の確認に供したものです。何故か最終決定された船名に修正されなかったようです。現在の我々は、大正時代に先輩達が乗船実習した練習船「あまき」として記念保存するので、写真3のように書き込みました。右から読んでくださいよ。あまきを建造した江崎造船(鳥羽市中の郷駅付近にあった)が建造に掛かる前に商船学校とどのような船にするのか、打ち合わせた筈です。帆船建造では、模型を作って帆装設備の打ち合わせをするのが一般的だったとか、写真もコピーもない時代だから領けます。即ち、造船所は小型で経済的というオーダーで全長は約54%の34mだが初代と同じ3本マストバーク型でこの模型を作り承認を得たのでしょうか。それにしても船底の銅板貼りこみなどは丁寧な作りです。これは模型を作る事が当時の必須作業で製造に習熟していた事を感じさせます。

3. この模型と軍艦天城との関りについて

普通なら名前を頂いているだけの関係ですが、巡洋艦天城は横須賀海軍工廠が国産艦建造を軌道に乗せた殆ど2番艦であり勉強しながら丁寧に造ったと思われます。又艦名の天城山は伊豆半島中央部の火山群の総称で、ここは全山で良材がとれ特に杉の美林が名高いらしい。天城の造船材は中でも御料林の木が使われたという。それなら横須賀の職工は良材を選びを選んで製作した事でしょう。そして練習船あまきにはこの砲艦天城の古材を活用している事から、この模型の固い無垢材は恐らく江崎造船で主要な木骨材を切り出し活用した際の端材に違いない。天城山の良材で砲艦天城と練習船あまきで使われた



写真1 船名は天城丸?船体は黒塗り。

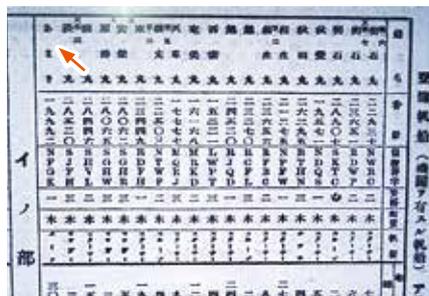


写真2 船名録は「あまき」



写真3 新しい船名

のと同じ銘木の一部と想像すると心震える思いもあるのです。

日清戦争には天城も大連攻略戦などに参加しましたが、本隊の大型艦が撃ち合い雌雄を決した黄海海戦には参加していません。だがここでの日本の勝利が砲撃力の有効性を示すことになり世界の海軍は大艦巨砲主義に走り出すことになりました。結果、大型輸入艦が増えて主力となり天城が前線に出る事はないままに年を取りました。だが東郷、山本などの大物軍人が少佐時代に艦長として経験を積んでいった艦である事も事実です。下表に3船の概略を示します。

4. 練習船あまきの甲板上的の装備について

先述のように、これは艤装の詳細を詰めてから作った模型ではなさそうです。ポートも写真4以外の実写真では前方ハウスの上にあったと分かります。しかし、その図面が無く、実際に合わせる事も出来ません。この事業は、元々幽霊船的状况の模型の修復で始まりました。船の玄人が見てもおかしくない状態にするのが目的です。埃だらけの甲板上には操舵装置などは残っておらず、しっかり残っていた部材はボートの架台だけでした。しかし、舵輪も無くては帆船になりません。そこで煙突、スカイライト、通風筒、ポート、舵輪、操作台などを推定で作って置いてみえています。(写真5、6)当時の帆船の資料など参考に伊藤名誉教授や同窓生と相談し時代考証をして決めているのです。但しセールを張ってみると位置変更が出て来るかも知れません。次に施工するのは甲板上的の部材、ロープを固縛するアイなど

を追加、整備します。マスト、セールを組み上げ、載せながら調整して進めていきます。

参考文献

- 1 日本船舶海洋工学会講演会論文集 2020S-OS3-3
伊勢大湊の造船資料について 一第4報 鳥羽商船学校と市川造船所ー 伊藤 政光
- 2 ウィキペディア 天城(スループ)
- 3 ウィキペディア あまき

同窓会HPで詳しく報告しています

練習帆船模型「あまき」修復

令和5年12月12日(火) その3

令和5年2月21日(火) その2

令和4年11月29日(火) 初回



2) 百周年記念誌発行

百周年記念誌編集長

副会長 加塚 伸吾 (S52E)

進捗状況について

令和7年に、母校創基150周年、同窓会設立100周年を迎え、その同窓会設立100周年記念事業の一つとして、百周年記念誌を発行することとしています。

その記念誌には、従前の記念誌(60、70、80周年誌)と同様に卒業生の技術報告、思い出、体験等を掲載する予定しています。

来年の母校創基150周年、同窓会設立100周年の式典等その他の掲載内容の取り纏め、百周年記念誌の発行に向けての現在(令和6年7月31日)の編集、

名称 全長 幅	時期	任務、動静	備考
天城 65m 9.1m 1883 巡洋艦 1898 二等砲艦	1878(明治11年)竣工 1905(明治39年)除籍 1908(明治42年)廃船	日清戦争(明治27~28)に参加 日露戦争(明治37~38)では横 浜港警備	(明17)東郷平八郎 艦長執務1年1ヶ月 (明19)山本権兵衛 艦長執務9ヶ月
係留練習船 天城 同上 同上	1909 海軍より保管転換され 校地沖に固定係留 1916 老朽化の為廃船	練習船として使用し、沖で宿泊 もして乗船実歴取得に供した。	廃船を売却して建造費に充当。 再使用可能部材はあまきに使用。
練習船 あまき 33.9m 8.26m	1917(大正6年)竣工 1925(大正14年)3月12日大 井川河口付近で座礁。同30 日引き揚げ中、強風の為沈没。	大正6、7、8年度練習航海実 施。9年10年は不況の営業不 振の為中止。大正11、12、13 年度練習航海実施。	維持運航は民間海運業者に委 託、高等船員と実習生を学校か ら派遣していた。



写真4 あまき



写真5



写真6

編纂の進捗状況を報告させていただきます。

まず、百周年記念誌の基本スタンスを80周年以降、100周年に至る同窓会活動を主な内容として、次の項目を取り纏めすることとしました。

百周年記念誌編集内容

- ◆同窓会設立100周年を迎えて
 - 会長巻頭挨拶・同窓会設立100周年の歴史・母校創基150周年の歴史
- ◆母校創基150周年の歩み
 - 学校長挨拶等
- ◆同窓会が行った（関係事業）
 - 母校創立140周年記念事業
 - 母校創基150周年記念事業・同窓会設立100周年記念事業
 - 故郷の海を愛する会
- ◆支部の歩み（支部活動）
- ◆卒業生の技術報告・思い出・体験等
- ◆編集後記
- ◆関係写真
 - 校舎・百周年記念資料館・新練習船・母校創基150周年、同窓会設立100周年記念式典等

卒業生の技術報告・思い出・体験等については、令和5年11月に同窓会各支部長並びに母校工業系教官へ寄稿者の推薦を依頼しました。

その寄稿者の推薦の取り纏めができ、令和6年1月末には各支部長、工業系教官から各推薦寄稿者に、あわせて各支部長に支部の歩み（支部の変遷、支部活動）を同窓会が行った事業として「故郷の海を愛

する会」に、活動状況の寄稿を依頼しました。

その後、商船系（航海科、機関科）から31名、工業系（電子機械工学科、制御情報工学科、情報機械システム工学科）から在生を含む24名の方々から同窓会設立百周年への思いを込めた寄稿がありました。

また各支部（東日本、関西、西日本、四日市、中部、伊勢志摩）からの支部の歩み（支部の変遷、支部活動）の寄稿がありました。特に青函連絡船の就航時に活動していた函館支部の活動内容等について、当時の在支部者からの寄稿もありました。

その他同窓会が行った事業として「故郷の海を愛する会」に、活動状況の寄稿もあり、現在は、それらの寄稿の内容確認、校正を行っているところです。

今後は、その他、掲載内容の編集、編纂して令和7年9月に举行される母校創基150周年、同窓会設立100周年の式典等の内容を盛り込んで、百周年記念誌の発行にたどりつく予定です。

なおこの同窓会設立100周年記念事業にかかる費用負担は同窓会への一般寄付により行っていくこととしており、同窓生個人、企業・団体に問わず広く寄付を募ることにより、この事業を推進していくものです。特に同窓生関係の企業・団体については、広告協賛をご依頼するもので、詳細については次に示すとおりですのでよろしくお願いいたします。

この同窓会設立100周年記念事業を成功、盛況に推し進めていくためには、同窓生会員並びに関係機関の多くの方々のご理解、ご支援が必要不可欠であり、今後ともよろしくお願いいたします。

百周年記念誌掲載の広告を募集します

基本サイズ (1ページ全面) 152×208mm	1/2サイズ 152×102mm
	1/4サイズ 152×48mm
	1/8サイズ 73×48mm
	1/8サイズ 73×48mm

冊子：B5サイズ

広告サイズ：基本サイズ（1ページ全面）	152×208mm	8万円
1/2サイズ	152×102mm	6万円
1/4サイズ	152×48mm	4万円
1/8サイズ	73×48mm	2万円

お申込みはフォームにて承ります。QRコードを読み込み、以下の情報をフォームより入力いただきお申し込みください。



1. 申し込み年月日
2. 会社名（団体名）、個人名
3. 担当者（同窓の場合は卒業学科と卒業年）
4. 郵便番号
5. 住所
6. 電話番号
7. メールアドレス
8. ホームページURL（ある場合）
9. 広告サイズ
10. 領収書 要・不要
11. 領収書 宛名

担当：副会長 加塚 伸吾 (S52E)

問合せメール：

✉kazuka@katch.ne.jp

NPO法人 ^{ふるさと} 故郷の海を愛する会

会長 溝井 昇 (S42E)

2009年に鳥羽商船同窓会伊勢志摩支部の有志数名が、地域の子供たちに世界につながる船や海を知ってもらおうと任意団体「故郷の海を愛する会」を立ち上げました。4年後にはもっと活動の輪を広げようと「NPO法人 故郷の海を愛する会」を設立し、現在に至っています。

私たちの活動の対象は当初から主に小学5・6年生と中学生です。子供たちが学校で貿易や運輸（海運）を学び我々の活動に興味を持ち、この会の活動がそれに応えることができるようになれば目的が達成されることとなります。

2023年度 事業報告

◆事業名「海から始まる物語 IN 2023」

1. 2023年度は新型コロナの2類から5類へ移行に伴い各見学施設等での規制が撤廃され当初の計画通りに実施できた。
2. 参加者が小学生高学年・中学生なのでイベントの運営をスムーズに行うためボランティアの人数を十分に確保し対応することができた。
3. 夏季に開催するイベント①②では熱中症対策として水分補給に十分配慮した。
4. イベントを通じて一人でも多くの子供たちが海や船に興味を持ち、その道に進む憧れのきっかけになるように、また参加することで友達の輪が広がり楽しい思い出となるように計画した。

イベント① 2023年7月26日実施 JMU津造船所見学と 鳥羽商船高専の練習船で体験航海

津市と鳥羽市で集合し、JMU津造船所で大型船の建造工程を見学し、船の大きさを体感しました。鳥羽商船高専の練習船に乗船し、伊勢湾体験航海をして、航行する大型船を近くで見ることができました。船上では船の設備、構造、機関等の解説を受け、ロープワーク等を体験しました。



イベント② 2023年8月2日実施 海の博物館見学と 鳥羽商船高専の練習船で体験航海

津市と鳥羽市で集合し、鳥羽市の海の博物館で見学、ものつくりを体験しました。鳥羽商船高専の練習船に乗船し、伊勢湾体験航海をして、航行する大型船を近くで見ることができました。船上では船の設備、構造、機関等の解説を受け、ロープワーク等を体験しました。

イベント③ 2023年10月7日実施 太平洋フェリー見学と名古屋港見学

鳥羽市と津市で集合し、太平洋フェリーの船内見学とビデオによる航行中の様子を見ました。名古屋港博物館では操船シミュレータなど体験、展望台では名古屋港の施設を見学しました。また南極観測船ふじの船内を見学して南極観測の歴史を学びました。



撮影：森田 真永 SN3

イベント④ 2023年12月9日実施 遊んで学ぼう！商船学校の歴史と船と海の話

鳥羽商船高専の校内で、船や海の講演を聞き、チャレンジコーナーではコンピューターやロボットについて講座を受講・体験しました。

◆収支について

2023年度は日本中小型造船工業会、日本船主協会、日本海事広報協会全日本海員組合、山縣記念財団から助成金、また鳥羽商船同窓会、同窓会伊勢志摩支部、会員の皆さんから寄付金を頂き年3回のイベントを無事開催することができました。同窓会、会員の皆さまにお礼申し上げます。

2023年度事業収支を下記の通り報告いたします。

収入	金額	支出	金額
受取会費	86,000	事業費	1,913,508
事業収益	170,000	管理費	454,176
受取寄付	625,000		
受取助成金	1,319,640		
その他	2		
合計	2,200,642	合計	2,367,684
		当期正味財産増減額	-167,042
		前期繰越正味財産額	313,024
		次期繰越正味財産額	145,982

2024年度 事業について

2024年度は「海から始まる物語 IN 2024」と題し4回の活動を計画しています。

今年度は鳥羽商船高専練習船「鳥羽丸」のリプレイスに伴い、毎年恒例の人気コンテンツ「鳥羽丸体験航海」を開催することができません。新たに伊勢三河湾水先区水先人会のシミュレータ見学と体験や、四日市港に停泊する鉱石運搬船の船内見学等を組み込んだ新しいイベントを計画しました。

計画通りの全イベント実施に向けて各企業・団体・個人その他関係者皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

イベント① 2024年7月30日 JMU津造船所と四日市港ポートビルの見学

津市と鳥羽市で集合し、JMU津造船所で大型船の建造工程を見学し、船の大きさを体感する。四日市港ポートビルで四日市港の歴史と働きを学ぶ。



撮影：植木 龍哉 R3卒

イベント② 2024年8月8日 四日市港停泊中の鉱石運搬船と 電力館テラ46・LNG基地の見学

津市と鳥羽市で集合し、四日市港に停泊中の鉱石運搬船“いせ みらい”（6455総トン／7797重量トン）の船内を見学する。

電力館とLNG船基地の施設を見学する。

※“いせ みらい”は、協同海運株式会社（社長：西村讓治氏（S59E卒））が共同保有、運航をしており、船内見学に協力いただくこととなった。

イベント③ 2024年10月5日 伊勢三河湾パイロットのシミュレータ体験と 名古屋港の見学

鳥羽市と津市で集合し、伊勢三河湾パイロットが実際に使用する訓練用操船シミュレータを体験、パイロットの業務を学ぶ。名古屋港ポートビルで港湾の働きや役割を遊んで学び、南極観測船ふじの船内を見学する。

イベント④ 2024年12月9日 遊んで学ぼう！商船学校の歴史と船と海の話

鳥羽商船高専の校内で、船や海の講演を聞き、模擬操船や大型エンジンの発停を体験する。他にコンピューターやロボットについて講座を受講・体験する。

終わりに

2023年度は新型コロナウイルスの影響を受ける事なく、計画した4回すべてのイベントを開催、無事終了することができました。コロナ禍に中止を余儀なくされた大型フェリーの船内見学は練習船鳥羽丸の体験航海とは違った興味を示し参加者は感動を受けたようです。今後も大型フェリーや停泊中の船舶の船内見学など、独自のイベントを実施していきたいと思います。

募集に関しては例年通り学校単位でポスターを掲示、小学5・6年生、中学1年生には全員リーフレットを配布しました。中学生の応募が減っているので今後この様式を考え直すことも有り得るかもしれません。

応募に関してはQRコードを活用することにより事務局の作業がスムーズになりました。

応募者の単位を個人とグループ別に分けてキャンセルがにくいよう工夫しました。247名の応募があり地域別で津市、松阪市、伊勢市が70%強を占める状況は例年同様でした。

会員募集中

乗船体験や造船所見学を始めとする多様なイベントは、夏休みを中心に2023年度までの15年間で54回開催され、延べ2,902人の小中学生が参加しました。海運の道を志すようになったという子供たちの声も届き始めました。この活動をこれからも継続してゆくため、私たちの活動に賛同し協力してくださる方を募集中です。ボランティアスタッフとしての参加、活動資金の援助やご寄付をお待ちしております。会のブログをぜひご覧ください。

会員種別	年会費	内 容
正会員	1,000円	<ul style="list-style-type: none"> この法人の目的に賛同して入会し、運営に参加する個人または団体 総会での議決権あり
賛助会員	なし	<ul style="list-style-type: none"> この法人の目的に賛同して入会し、運営に参加する個人または団体 総会での議決権なし

会費・ご寄付

振込先：ゆうちょ銀行

振込方法：振込取扱票にて振込

口座記号／口座番号：00830 9 183524（右詰めで記入）

加入者名：漢字…(特非) 故郷の海を愛する会

カナ…トクヒ) フルサトノウミヲアイスルカイ



活動ブログ

<http://blog.canpan.info/umiwoaisurukai/>



団体情報

<https://fields.canpan.info/organization/detail/1882169442>

学校だより



年間行事やコンテスト受賞紹介は抜粋してご紹介しています。その他の行事やコンテスト詳細は、学校HPからご覧いただけます。

年間行事 (暦順に掲載)

第52回商船学科卒業証書授与式並びに 第16回専攻科 (海事システム学専攻) 修了証書授与式を挙行

令和5年9月22日(金)、第52回商船学科卒業証書授与式と第16回専攻科 (海事システム学専攻) 修了証書授与式を挙行いたしました。

授与式では、和泉校長から商船学科卒業生28名に卒業証書、専攻科 (海事システム学専攻) 修了生4名に修了証書と学位記が手渡され、激励の言葉が送られました。式の最後には、白い制服姿の卒業生全員が二列に並び、「ごきげんよう」と挨拶。帽子を宙高く投げる伝統の別れのセレモニーを実施し、晴れ晴れとした姿で学び舎から巣立っていきました。



第1回情報機械システム工学科 卒業証書授与式並びに 第18回専攻科 (生産システム工学専攻) 修了証書授与式を挙行しました

令和6年3月15日(金)、第1回情報機械システム工学科卒業証書授与式並びに第18回専攻科 (生産システム工学専攻) 修了証書授与式を鳥羽市民体育館サブアリーナで挙行いたしました。

情報機械システム工学科は平成31年 (2019年) に新設され、今年度は本学第1期生の卒業生となります。

式典では和泉校長から学生一人ひとりに証書が授与された後、「同窓生、研究室や部活の諸先輩ともしっかりつながり、また後輩を引っ張ってください。

人生100年と言われる時代、スマートで几帳面、負けじ魂で進もうではありませんか。」と式辞が送られました。

卒業生、修了生は鳥羽商船高専での思い出を胸に、晴れやかな姿で本校を巣立っていきました。



令和6年度入学式を挙行いたしました

令和6年4月5日(金)、令和6年度の入学式を挙行いたしました。今年度は、商船学科42名、情報機械システム工学科80名、専攻科システム工学専攻8名及び留学生3名の新入生を迎えました。古山校長から式辞が述べられたあと、本科と専攻科の入学生代表が新たな学生生活のスタートに向けて抱負を述べました。



各種コンテスト

高専ロボコン2023 全国大会出場決定 & 東海北陸地区大会 デザイン賞・特別賞受賞!

令和5年10月29日(日)、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023東海北陸地区大会が石川県野々市市の金沢工業大学第二体育館で開催されました。

今年度の競技課題は「もぎもぎフルーツGOラウンド」。

2分30秒の試合の競技時間中に、ロボットが角材やロープの障害を乗り越えながら、フルーツに見立てた、ネットに入ったボールを収穫し、その得点

を競う競技です。本校からは、2チームが参加しました。

地区大会の結果、Aチームが全国大会出場・デザイン賞を受賞、Bチームが特別賞（㈱デンソー）を受賞いたしました。



第2回高専GIRLS SDGs×Technology Contest (高専GCIN2023)にて文部科学大臣賞、 JFEスチール賞をダブル受賞

令和6年1月21日(日)、日経ホール（東京・追手門）にて開催された第2回高専GIRLS SDGs×Technology Contest（高専GCON2023）にて、鳥羽商船高専と豊田高専の合同チームが文部科学大臣賞とJFEスチール賞をダブル受賞いたしました。

高専GCONは、女子学生を中心としたチームで日頃行っている研究や学習がSDGs観点からさまざまな社会課題に対してどう貢献できるか考えることにより、未来の研究者・技術者としてさらなる成長を促すことを目的とします。今回、鳥羽商船高専と豊田高専との合同チーム（チーム名:かきっ娘）は、「CO₂を吸収する無焼成スマート牡蠣殻タイル」というタイトルで発表しました。本取り組みは、ケアシェル株式会社（鳥羽市）、株式会社中島窯業（多治見市）のご協力を得て、産学地域連携によって実施されました。

なお、この牡蠣殻タイルはかきっ娘が大好きなサウナの内壁材としての利用を想定しており、鳥羽市の観光をサ活によって振興しようという取り組みにつなげていきます。



地域活動・地域貢献

令和5年度三重県・鳥羽市・伊勢市 総合防災訓練に参加しました

令和5年度三重県・鳥羽市・伊勢市総合防災訓練に参加いたしました。本校は、小型船あさまによる、鳥羽市内の離島（答志島桃取）への災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team、通称DMAT（ディーマット））の輸送を担当しました。



教職員人事

採用

校長	古山 雄一
情報システム工学科准教授	酒井智香子
鳥羽丸技術職員	溝口 海

転入

商船学科講師	西井 典子
商船学科助教	片倉 広暁
情報機械システム工学科准教授	廣瀬 誠
学生課長	大原 真樹
学生課長補佐（学生・寮担当）兼学生生活係長	伊藤 晴美
総務課長補佐（施設担当）兼施設係長	徳田 敬明

同窓生の本校教職員

齊心 俊憲 (H1N)	鳥羽丸船長
山野 武彦 (H10E)	鳥羽丸機関長
山口 康太 (H23E)	商船学科准教授
谷水 聖奈 (H27N)	商船学科助教
大野 伸良 (S56E)	商船学科嘱託准教授
出江 幸重 (H3M)	情報機械システム工学科教授
江崎 修央 (H4M)	情報機械システム工学科教授
中井 一文 (H16I)	情報機械システム工学科准教授
竹内 晃輔 (H7I)	学生課専門職員
濱口 沙織 (H17I)	テクノセンター技術専門職員
谷水 志帆 (H16N)	テクノセンター技術専門職員
吉岡 裕也 (H16E)	テクノセンター技術専門職員
山口 雄大 (H20M)	テクノセンター技術専門職員
井田 雄人 (H22M)	テクノセンター技術専門職員
中北 創太 (R3I)	テクノセンター技術職員

支部だより

東日本支部 支部長 水野 博之 (S48N)

皆様には、いつも東日本支部活動にご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。昨年の本部総会以降の活動について報告させていただきます。

本部総会開催

昨年6月17日、丸の内の外国人記者クラブで開催されました。開催地支部長としては、出席者数が大変気になり、夜も熟睡できない状態でした。というのも前年秋開催の支部総会の参加者が20名弱、加えてコロナ明けで外出控えの傾向が色濃い中での開催でしたので勢い低調が見込まれたからでした。蓋を開けてみると来賓を含め65名とまずまずの人数にて、安堵の思いを開催地支部長挨拶で吐露したところ、皆さんから温かい拍手を頂いた次第です。

今秋には支部総会を開催予定ですが、本部総会の流れを引き継ぎ多くの方の参加をみての盛会を目指して参ります。さすがに今回は熟睡できぬことにはならないと思います。

横浜港カッターレース

今年5月19日のレースに、錦浦会から1艇が出走いたしました。当初は2艇で申し込みましたが、申し込み数が多いため、抽選となり1艇が落選の憂き目を見ました。このカッターレースには全船協を通して競技役員を2名派遣しており、運営本部に協力しているのでなんとかならないのかと詰め寄ったのですが、決定後のことなので覆ることはありませんでした。

かくして1艇の出走となったのですが、無念の思いをぶつけ3分をわずかに超える好記録でゴールいたしました。反省会が近く中華料理店で開かれ、応援を含め20名近くの方が参加され大いに盛り上りました。この会には先輩諸氏から寸志の激励がありました。この報告の機会にて御礼申し上げます。

その他活動

攻玉社同窓会 総会が今年5月11日に東京グランドホテルで開催され、鳥羽商船同窓会を菅沼会長代理で単身参加いたしました。3回目の参加となる今回、皆さんから親しく声をかけられ、まるで攻玉同窓生になったかの感がありました。理事長挨拶で今年は東大合格者が十数年ぶりに2桁を割り誠に残念、しかし早稲田・慶應の合格者は100名を超えてまずまずとの話に、驚きしきりでした。また、余興で攻玉社OBの古典落語家笑福亭円笑師匠の一席があり「人生の落伍者になってまった」のオチに大笑いしました。創始者を同じくする学びやの連携はいいものだとつくづく思い返しました。

最後に今年5月15日に横須賀で執り行われた戦没・殉職船員追悼式に参列しました。海上自衛隊音楽隊の厳かな演奏の中、献花が行われ、また観世流の能楽が古式豊かに奉納されるなど、殉職船員の方に想いを新たにする式典でした。

以上、支部活動の報告といたしますが、今後とも理事の皆さんと力を合わせて、支部員の方々ための支部活動に邁進してまいります。よろしくお祈りいたします。

●令和6年度東日本支部総会開催決定

日時：11月23日 12:00～ 場所：ナビオス横浜

中部支部 支部長 山口 淳 (S61N)

昨年5月に世界保健機構が新型コロナウイルス感染拡大に対して発出していた緊急事態宣言の終了を発表してはや1年が過ぎようとしています。依然感染の恐れがあるとはいえ、街ゆく人々の中でもマスクをしない人が増えてきたように思います。忘れかけた日常を取り戻すべく今年度も同窓会の活動を活発に行っていきたいと思います。今年度は同窓会本部の理事会・総会及び懇親会が名古屋で開催されるため、本部と連携を取り準備を進めて参りました。多数の同窓生が集い、盛会となる事を願うばかりです。

令和5年度活動報告

令和5年5月12日 名鳥会定時総会開催

於：サイプレスガーデンホテル

計27名出席 令和2～4年度コロナ禍による中止後4年ぶりの開催

5月20日 第49回名鳥会ゴルフコンペ 10名参加

於：三鈴カントリークラブ

優勝：山口 淳 (S61N)

準優勝：小林 拓 (H17E)

3位：町 裕次 (S52N)

10月7日 「故郷の海を愛する会」来名 飲料差し入れ

10月19日 練習船銀河丸 飲料差し入れ

11月3日 第50回名鳥会ゴルフコンペ 12名参加

於：三鈴カントリークラブ

優勝：北地 幸二 (S54N)

準優勝：山本 孝弘 (S49E)

3位：瀬川 尚吾 (S55N)

11月24日 練習船日本丸 飲料差し入れ

令和6年2月 めいよう会 (全船協・海洋会・若葉会)

合同懇親会→開催中止

懇親ゴルフコンペについては、春は5月18日に開催のため間に合いませんが、秋にも10月～11月に開催予定です。中部支部会員のみならず同窓生ならば参加可能ですので、特に東海三県在住の方々のご参加をお待ちしております。山口までご連絡ください。

四日市支部 支部長 待井 健司 (H2N)

令和5年度の四日市支部活動について、ご報告いたします。

令和6年2月16日(金)に「ビアダイニング グリルステーション」において、四日市支部役員会を、6月22日(土)には、第58回鳥羽商船同窓会四日市支部総会を開催いたしました。

総会は、実に5年ぶりの開催となりましたが、22名の同窓諸兄の皆様にご出席いただき、盛大に開催することができました。

総会では、議題の令和5年度会務会計報告、支部規約の改正、支部役員改選、令和6年度支部活動計画

について、満場一致でご承認をいただき、その後、一同、楽しい時間を過ごすことができました。

出席いただきました皆様に改めてお礼を申し上げますとともに、来年度の支部総会においても是非ともご出席いただきますようお願い申し上げます。

また、7月30日(火)には、「故郷の海を愛する会」主催の四日市港見学会が開催されました。見学会には、将来を担う55名の小中学生が参加され、四日市支部も、微力ながら子供達の貴重な体験に協力させていただきました。

以上、支部報告とさせていただきます。

≪R 6.2.16 四日市支部役員会出席者≫

石垣三郎(S37N) 室 博也(S55N) 笠松 伴(S60N)
西井育央(S61E) 待井健司(H2N) 伊藤英樹(H4E)
西村 崇(H6I) 岡山雄一(H11E) (敬称略)

≪R 6.6.22 四日市支部総会出席者≫

中西新治(S35N) 石垣三郎(S37N) 山本晴久(S50E)
山本雅拾(S50E) 小笠原典城(S51N) 山下栄司(S52N)
高橋敏行(S53E) 室 博也(S55N) 加藤 豊(S57E)
畑 誠(S57E) 笠松 伴(S60N) 山本貴久(S60N)
西井育央(S61E) 待井健司(H2N) 岡野泰洋(H3E)
伊藤英樹(H4E) 西村 崇(H6I) 岡野清人(H9N)
岡山雄一(H11E) 犬飼和孝(H13N) 河村健二(H14M)
鍋島豊樹(H18E) (敬称略)



伊勢志摩支部 支部長 三井 健次 (S43E)

令和5年度 活動報告

- 6月17日(土) 同窓会定期総会出席
日本外国特派員協会において同窓生61名参加して盛大に総会が開催された。伊勢志摩支部理事数名が参加した。
- 9月22日(金) 卒業式出席
いせトピアにて商船学科卒業式に理事5名が出席した。
- NPO法人故郷の海を愛する会が主催する「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」への協力。春からフジバカマを10個のプランターで育苗したが、開花時に白絹病になり開花しなかった為に断念した。
- 同窓会設立100周年記念事業として帆船模型「あまき」修復作業に協力した。
- 同期会開催奨励金制度 年間2組の同期会が利用した。
- 12月2日(土)、3日(日) 海学祭出店
例年通り百周年記念館談話室(名誉教授室)で、模擬店を同窓の村田健次さん協力のもと珈琲店を開店した。来店者の多くの方を百周年記念資料室に案内し、展示品の紹介を行った。原価を差し引いた売上金は同窓会への寄付金とした。

令和6年度 活動計画

- 同窓会定期総会出席(6月9日中部支部開催)
- 卒業式出席
卒業生同窓会会費納入促進プレゼンを行う。
- NPO法人故郷の海を愛する会への協力
「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」
今年度もフジバカマ苗を10個のプランターに株分け育成し、記念館前に設置する。
- 同窓会設立100周年記念事業として船模型「あまき」修復作業に協力する。
- 同期会開催奨励金制度は年間5組
支給額¥20,000で継続する。
- 海学祭への助成金¥50,000を計上した。模擬店出店協力する。

関西支部 支部長 坂田 守 (S56N)

関西支部は去る令和6年2月18日(日)12時から、に神戸の楠公会館において関西支部総会・懇親会を開催しました。

コロナ禍により4年ぶりの開催となり、家族も含め52名の参加でした。

総会では、今後の活動についても、現体制で実施することで承認を得、懇親会では和気あいあい、時にはにぎやかに、懐かしい歌あり、懐かしい話ありであったという間の2時間でした。

今年は、年末に実施したいと考えております。

皆様、多数のご参加をお待ちしています。

西日本支部 支部長 中野 正義 (S41N)

至って広域ではありながら、小規模な支部会員数が当支部の特徴ではありますが、活動実績と今後の計画を、次の通り報告致します。

実績

令和5年6月17日

同窓会本部理事会・総会・懇親会出席(東京/中野支部長・神子理事)

令和5年11月18日~19日

支部総会・懇親会(海峡ビュー下関/17名)

令和5年12月16日

支部理事会(福岡・天神/2名)

令和6年1月16日

支部新年会(福岡・天神/7名)

活動計画

令和6年6月~

“長崎帆船祭り”視察(長崎/有志)

令和6年6月9日

同窓会本部理事会・総会・懇親会出席(名古屋/中野支部長・神子理事)

令和6年10月~ 支部総会・懇親会(下関/15名程度)

令和7年1月~ 支部新年会

理事会(2名 適宜開催)

関門海峡を眺めての露天風呂、汽笛の聞こえる“下関海峡ビュー”での懇親は如何でしょうか?他支部の方々の御参加も歓迎ですので、中野又は神子に御連絡下さい。

西日本支部事務局 神子 功理事(S48E)

投稿記事

「旭日双光賞」叙勲

昭和49年の卒業生ですが、うれしいお知らせが有ります。機関科卒業生の土井清史君が叙勲しました。「旭日双光賞」です。



この叙勲は船を降りた後実家の家業を継ぎ、地元の大阪府泉南市の市議員を20年間勤め上げた事の功績によるものです。我々のクラスから叙勲者が出たことは非常に誇らしいことで、是非皆様にお知らせしたいと思ひ寄稿しました。

船、船会社で活躍されているかたは多くおられると思いますが、政治家として活躍された方もいるということで、同窓会としても誇れることと思ひます。

元東日本支部長 大橋 秀章 (S49N卒)

横浜港カッターレース報告 in 2024



全員集合

大先輩 石崎 清之 (S34N卒)様、岩崎 直昂 (S35N卒)様、田中 三郎 (S42N卒)様 ご参加、大きな応援を頂きました。

「鳥羽商船 精鋭艇 タイム3分04秒19」

第41回横浜カッターレースは、多数のご参加をいただき、無事終了しました。

結果

●精鋭艇 4艇中3位でゴール入念に準備するも 予選通過ならず。決勝進出には30秒以上短縮要。来年こそは!!



精鋭

天気晴朗なれど記録はのびず...

レース後、横浜中華街での反省会。冷たいビールが進み、1日を振り返りました。今年も、楽しく、頑張りました。皆様、ご協力ありがとうございました。 幹事 鈴鹿 文彦

全員集合 来年も集まります！

《精鋭艇 各期卒業生から選抜精鋭》精鋭 (精鋭)

艇長	蜂谷 守	S52E卒
艇指揮	福田 憲二	S55N卒
漕手	稲益 義久	S51N卒
漕手	内藤 文司	S51N卒
漕手	中村 英一	S51N卒
漕手	三輪 康広	S51N卒
漕手	山田 元昭	S55N卒
漕手	池田 康宏	H5N卒

同期会・同窓会

高専5期生の集い 令和5年10月14日(土)
～卒業後47年ぶりの再会～



記：加塚 伸吾 令和5年11月1日

第28回 鳥羽商船バレーボール部
OB会の開催 令和5年10月21日(土)



記：中井 一文 令和5年12月26日

昭和44年卒 航海科・機関科同期会
令和5年11月16・17日 (木・金)



記：江崎 隆夫

高専4期生(90期)古希同窓会
令和6年5月11日(土)



上段左から 伊藤公男、佐野実、岩谷省吾、松本安生、氷室成治、周藤莊一、佐々木秀寿、中井川嘉彦、青木順、柄木田宏

下段左から 竹原靖志、松本吉生、森口祐吉、愛敬信夫、早川和良、前原武人、伊藤剛一、角野充



上段左から 財田充郎、小林（旧姓 岩佐）清和、山本雅拾、中村映、坂下正人、古田正剛、鷺巣喜代志、古敦、城田均、杉岡祥行、坂口学

下段左から 中西（旧姓 山本）哲也、山本晴久、山田睦美、伊藤文治、岡田清実、堀江茂、原衛、服部誠

記：岡田 清実（S50E）令和6年5月25日

傘寿記念クラス会 令和6年7月4日(木) 80期生（昭和35年4月入学&同38年3月卒業）



記：幹事 田中 忠士（N80期生）

端艇部OB会開催 令和6年7月13日(土)



投稿者：福田 憲二（S55N卒）

同期会・同窓会・クラブOBOG会の様子をご紹介します。ご投稿いただいた記事は同窓会HP「会員の投稿」でご覧いただけます。



特集

「我等! 鳥羽商船」

在学生編

白川の学び

白川 琥大

情報機械システム工学科4年

入学して気づけばもう4年目を迎えました。過去3年間と比較し



て、今年度はより一層自主性が求められるようになったと感じています。ここでは、鳥羽商船のJ科(情報機械システム工学科)で学んでいることについてお話しします。

4年次になると、定められた「必修科目」に加えて、自身の興味関心に応じて履修し単位を取得する「選択科目」が増えました。この変化により、より専門的な分野への深い探求が可能になり、将来キャリアを見据えた学習計画を立てることができるようになりました。授業内容も、これまで学んできた基礎的な知識や技術を土台としつつ、より専門的かつ実践的なテーマを扱うものへと発展しています。

私は情報系を専攻しており、実際にWebアプリケーションを開発したり、AI技術を学び、実際の課題解決に活用したりする機会が増えました。データに適したモデルの作成や位置情報を共有するWebアプリの実装など、手を動かして何かを作ることに楽しさを感じています。授業を受ける中で、常に最新の動向にアンテナを張り、学んだ技術を適切に活用する能力の重要性を実感しました。

また、技術的なスキルだけでなく、コミュニケーション基礎やビジネス基礎など、社会で必要とされる幅広いスキルも学んでいます。これらの授業では、チームで日常にあるビジネスチャンスを探し、効果的なプレゼンテーション技術、企業に必要な手順などを実践的に学び、将来の職場環境での活躍に備えています。

さらに、4年になり自分のキャリアを考え、自己分析や業界分析を通じて将来のキャリアを深く考える機会が増えました。授業でも企業の第一線で活躍する方々による講演や、インターンシップのエントリーシート作成指導、ビジネスメールの書き方講座など、将来を見据えた実践的な活動も一般授業と並行して行うようになりました。この経験を通じて、自己分析や将来設計の重要性も強く認識し、より明確なキャリアビジョンを描くようになりました。

PBLという授業では、地域課題の解決に向けたプロジェクトをチームで進めています。課題を分析し、自分たちの持つ技術を駆使してシステムの設計と構築を行っています。この取り組みは、学んだ技術を社会にどのように還元できるかを具体的に考える機会になっています。チーム構成の特徴は縦割り制にあり、先輩方が研究室で培った技術を下の世代に受け継いでいくような形式をとっています。私が研究室に所属した2年次当初は、右も左もわからない、プログラミングの基礎もままならない状態でした。しかし、チームメンバーと教員の熱心な指導のおかげで、着実に様々な知識を習得することができました。研究室のメンバーとチームを組み、いくつかのコンテストに参加する中で、グループ開発の難しさや面白さを体験しました。直近で印象に残っているのは、3年次に参加した「第34全国高専プログラミングコンテスト」です。このコンテストでは、安全安心なカヤック航行を支援するシステム「ぼどろーる」を開発し発表しました。メンバーそれぞれが得

意分野を活かし、互いの強みを補完しあいながらシステムを完成させた結果、準優勝相当である優秀賞を獲得することができました。この経験を通じて、技術力の向上だけでなく、チーム開発での個々の役割の重要性を再認識しました。自分の力不足を痛感する場面も多く、メンバーの能力と努力に驚かされ、助けられることも多くありました。現在、チームを率いる最高学年の立場となり、大きな責任を感じています。チームの中で柔軟な思考と適切な決断力を備え、チーム全体の力を結集して優れたシステムを完成させるよう全力を尽くしたいと考えています。

鳥羽商船での日々は、多くの学びと多くの挑戦の機会に恵まれた貴重な時間です。友達、先輩、後輩、そして先生方との交流を通じて、私は技術的にも人間的にも成長していきたいと思っています。これからも、自身の未熟さを自覚しつつ、日々の挑戦を継続し、周囲の人々と切磋琢磨しながら、さらなる成長を目指します。卒業まで残り1年半。この人生のうちの鳥羽商船での日々を大切に、充実感と喜びを持って過ごしていきたいです。

卒業生編

鳥羽商船と私

土井 清史 昭和49年 機関科卒

暑い日が続きますが鳥羽商船同窓会の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、私49E（高専3期）の土井清史です。

令和5年春に旭日双光章と勲記を受章しました。

この受章について同窓会報に寄稿してはとのお話を受け、本来の分野である海で活躍されている方が沢山いる。また、他の



分野でも頑張っている方がすくなくおられると聞いています。私自身学校に何も貢献していないし、受章については私個人でもらったものではなく応援していただいた方があってこそその受章で私が代表して受けたと思います。この様なことから投稿については遠慮したく思いましたが、海ではなく他の分野でも頑張っている卒業生がいるという事を知らせてもらいたいとの説得を受け投稿することにしました。

今、振り返ってみると 本校での4年半、実習1年（内造船所6ヶ月）成績も決して良くなかったしその日その日を何の目的も将来の目標もなしに過ごしていたように思います。私は機関科でしたので最後の6ヶ月は造船所（大阪の造船所）で確か現場ではアップさんと呼ばれ社会の厳しさに触れる機会がありましたが、実習生であることに甘えてしまい「のほほん」と過ごし卒業後は神戸の船舶会社に就職、やっと船乗りになりましたが学生時代に叩き込まれた船乗りのモットウのお陰でどうかこうにか仕事をこなし、約8年お世話になった会社を親父の病気

をきっかけに退社、家業の米屋を継ぐ事になりました。小さな町の小さな個人商店なので地域の消防団活動、自治会の雑用に駆り出され、自治会長に押された事をきっかけに大阪府の最南端市人口6万人余り阪南市の市議会議員に立候補し市議会議員となりましたが、議員になったものの政治の世界右も左もわからず右往左往するばかりで全くの1年生、地方自治法等の法律関係、議会での質問、議員としての在り方などの関係書籍を読み漁り1期4年が過ぎるころようやく職員との付き合い、行政の仕組み、他の議員の考え方、議員としての在り方などがやっと分かるようになりました。

現役中、ごみの焼却場談合問題、政務調査費不正使用、少子化による保育所統廃合問題、など日本中を騒がせたこともありましたが、今年消滅可能性自治体に指定された少子化問題は喫緊かつ重要な課題となっており残り残した事の一つです。5期20年市民の方からの付託を受け議員として勤めてきましたが、脊柱管狭窄症で歩行困難で手術が必要となり引退を決めました。その後、市から受章の知らせがありました。受章の条件は、70歳以上5期20年で市からの推薦と警察の審査をクリアすることです。

以上長々と自分の経歴を述べましたが、卒業後50年本校も我々の時とは様変わりしていて、時代の変化を感じます。高専3期の同窓会、何十年ぶりに会った同級生、年相応のいいオヤジにはなりましたが昨日まで一緒にいたかのように50年という歳月を忘れ昔に戻ったまま酒を酌み交わせる、これも鳥羽商船で過ごした日々があった所以だと思います。只々、苦楽を共にした寮生活を思い出し、懐かしみ、思い出話に花が咲きました。しかしながら、将来の船乗りは如何になってしまうのか。横道にそれた私が言うのも変ですが危惧しているのは私だけではないと思います。

受章の話に戻りますが、大阪府での伝達式その後、皇居での拝謁の予定でしたが、身体的理由により皇居行きは辞退しました。受賞後はこれといった変化はありませんが私生活においては、今まで以上に気を遣わなくてはならなくなりました。心情的には、今までの人生を見直すいい機会となったのではと考えます。若い頃にもっと勉強しておけば…後悔先に立たずですが昔の人は上手く言ったものです。

しかしながら、私の人生おしなべて可もなし不可もなしと言って処だと自分なりに納得しています。3人の子供たちも、無事片付き私の役目としては終わりましたが後は孫と遊びながら小さな畑で家庭菜園でもしてゆっくり過ごすことが出来ればと考え、それも又、よしと思う今日この頃です。

後書き 取りとめもない私事を書き綴りました。寄稿としてはふさわしくないかも知れません。学校に何の貢献もしていない、一卒業生というだけで同窓会報に取り上げていただき、申し訳なく思うと同時に感謝申し上げます。

寄稿にあたりお世話になったS49N大橋秀章様、同窓会事務局の方々にお礼を申し上げます。これから

の同窓会皆様のご健康、ご多幸、ご活躍と、鳥羽商船同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

新学科が切り拓いた未来

濱口 宝 令和6年 情報機械システム工学科卒
株式会社サイバーエージェントソフトウェアエンジニア

私が新学科である情報機械システム工学科を一期生として卒業してから半年が経ちました。執筆の機会をいただきましたので、新学科での学びと、それが卒業後にどう生かされているのかをお伝えします。
新学科での学び 2019年に新設された情報機械システム工学科の最大の特徴は、情報・電気・機械を複合的に学ぶこと、そしてProject Based Learning (PBL)を中心とした教育方針です。座学だけでなく、身の回りの地域や産業の課題解決を通じて学ぶ方法は、当時はとても新鮮で刺激的でした。

授業 1年次ではC言語のプログラミング、電気電子の基礎的な計算、CADによるパーツ設計などを学びました。学年が上がるにつれ専門性が増していきます。マイクロコンピュータを使った電子回路の実験、実習工場での機械加工や溶接、プログラミングによるデータ分析や機械学習など幅広い経験を積みました。4年次からは自分の志向性に合わせて授業を選択できるオーダーメイドカリキュラムがあります。私は情報系のユニットを選択し、ビッグデータ解析や最先端のAI、センサネットワークなど応用的な分野を学びました。5年間の複合的な学びは、柔軟な問題解決能力を育ててくれました。一つの工学分野に固執せず、多角的なアプローチができるようになりました。

PBL・課外活動 私の学生時代は挑戦の日々で、高専ロボットコンテスト、高専プログラミングコンテスト、DCON(高専ディープラーニングコンテスト)など様々なコンテストに参加するだけでなく、学外で視覚障がい者のセーリング支援アプリの開発にも同窓会の西山明さんと取り組んでいました。特に印象に残っているのは、3年次のPBLで取り組んだ小中学生向け遠隔養殖体験システム開発プロジェクトです。地元の養殖業者の協力のもと、チームで開発を進めました。実装はもちろんのこと、課題調査から要件定義、プロトタイプング、ユーザーテスト、チームワークまで、ソフトウェア開発の一連のプロセスを実践的に学ぶことができました。課題調査の段階で、実際に現場を訪問させていただいた経験は今でも鮮明に覚えています。良いシステムを作るためには、学校でプログラミングするだけでなく、実際に現場に足を運んで、ユーザーの体験をする重要性を痛感しました。

進路の選択 新学科での学びを通じて、技術の可能性と社会への貢献に強い関心を持つようになりました。5年次の夏まで進学か就職かで迷っていましたが、実践的なスキルを磨き、早く実社会に貢献したい思いから、株式会社サイバーエージェントへの就

職を決断しました。当社を選んだ理由は、時代の変化に応じた新しい価値を提供できることと、若手の裁量が大きいこと、技術力が高いエンジニアに囲まれて自身のスキルを大きく向上したいと考えていたからです。また、新規事業の立ち上げや、最新技術の積極的な導入など、高専で培った「新しいことへのチャレンジ精神」を存分に活かせる環境だと感じました。

現在の仕事 現在、株式会社サイバーエージェントで、生成AIを活用した全社の業務改善プロジェクトに携わっています。高専時代のPBL経験が、現在の仕事のアプローチに大きく影響しています。例えば、プロジェクトの企画段階から他部署と積極的に協働し、技術的可能性と事業ニーズのバランスを取りながら進



めていくスタイルは、高専時代のプロジェクト経験そのものです。また、プロトタイプを作ってPoC(概念検証)を繰り返す姿勢も、PBLで培った「まず手を動かす」習慣の延長線上にあります。最近のプロジェクトで、高専時代の学びが特に活かした例があります。複数の大規模言語モデルで生成される文章の比較検証を行うとき、指標を用いて論理的に比較を行いました。この比較によってプロダクトで使用するモデルを決定し、上長から高い評価を得ました。これは高専時代に学んだデータ分析スキルと、論理的思考力が基盤になっています。私はエンジニアとして採用されましたが、開発だけでなく、企画やヒアリング、プロダクトの方向性決めなどビジネス面の仕事にも携わっています。高専時代に技術以外にも触れる機会が多かったおかげだと感じています。

おわりに 鳥羽商船、特に情報機械システム工学科で学ぶことは、最先端の知識と実践的なスキルを身につけられる素晴らしい機会です。PBLを中心とした教育は、単なる知識の習得を超えて、問題解決能力や創造性を育ててくれます。同窓会の西山さんと取り組んだ視覚障がい者向けのセーリング支援アプリの開発など、課外活動においてもさまざまな機会が適用される環境にあります。技術の進歩は日々加速していますが、高専で身につく「学び方を学ぶ力」は、どんな時代にも通用する普遍的なスキルです。もし鳥羽商船の学生が読んでいましたら、新しいことにチャレンジする勇気と、仲間と協力して課題を解決する力を、充実した5年間で身につけてください。皆さんの挑戦が、未来の技術と社会を形作ることを楽しみにしています。



日本セーリング連盟から頂いた視覚障がい者セーリング支援アプリ開発の感謝状



三代目 鳥羽丸

練習船「鳥羽丸(3代目)」の航跡

鳥羽丸船長 齊心 俊憲
航海学科 平成元年104期 (18期)

1. はじめに

鳥羽商船高等専門学校の校内練習船(係留帆船「天城」を除く)は、1916年に建造された練習帆船「あまき」から始まり、2024年で108年という歴史があります。

令和6年(2024)をもって退役した練習船鳥羽丸は、6代目の校内練習船であり「鳥羽丸」としては3代目となります。本校における歴代の校内練習船は図1～図6の通りです。



図1 「あまき」



図2 「誠丸」



図3 「たつ丸」



図4 「鳥羽丸(初代)」



図5 「鳥羽丸(2代目)」

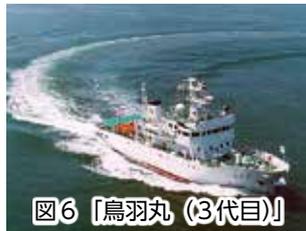


図6 「鳥羽丸(3代目)」

2. 「鳥羽丸」の運航について

鳥羽丸の実習は、学生の登校期間に集中して行われます。商船学科1年生から5年生及び情報機械システム工学科1年生の練習船実習(火曜日・水曜日)、商船学科3年生(木曜日午後:通年)及び4年生(金曜日午後:前期)の実験実習を運航しています。

	航海日数	航海時間	乗船者数	乗組員	航海距離
航海実習	863日	4,329時間	21,953名	7,684名	40,168マイル
実験実習	890日	1,255時間	6,684名	7,920名	8,729マイル
P R 航海	166日	476時間	6,868名	1,474名	4,025マイル
学校行事	125日	256時間	6,063名	1,129名	2,035マイル
入 渠	421日	1,028時間	51名	3,667名	10,612マイル
研修航海	47日	174時間	657名	424名	1,508マイル
研究航海	43日	204時間	268名	399名	1,481マイル
その他航海	24日	77時間	120名	215名	436マイル
合 計	2,579日	7,799時間	42,664名	22,912名	68,994マイル

表1 「鳥羽丸」の全運航実績

学校行事として、「オープンキャンパス」「海学祭」など、PR活動として「故郷の海を愛する会」「名古屋港PR航海」「四日市港PR航海」などの体験航海や一般公開を行っています。

鳥羽丸が平成6年(1994)就航から令和6年(2024)退役(係船のための空船廻航を含む)までの30年間の運航実績は、表1のとおりです。

3. 最終運航とお別れセレモニー

鳥羽丸代船は、商船系高専シリーズ船(3番船)として計画され、すべて同サイズで建造されることとなりました。慎重に検討した結果、練習船棧橋も同時期に架け替えを行うことになりました。

その後、棧橋の設計及び工事の進捗により、鳥羽丸運航が見直され、令和6年6月13日(木)の商船学科3年生の実験を最後の実習航海とし、6月17日(月)鳥羽丸は、係留地に向けて最後の航海(空船廻航)をすることとなりました。

学生及び教職員のお別れの機会として、6月14日(金)「鳥羽丸お別れセレモニー」【図7】及び「記念航海」を行い、「鳥羽丸」は練習船としての運航を終えました。イベント終了後に、ファネルの校章を取り外しました。(鳥羽丸のコンパスマークと号鐘は、百周年記念館に展示させていただきたいと考えています。)



図7 「JH3304(コールサイン)&UW1」

「鳥羽丸お別れセレモニー」は、学生有志による「Tobamaru Project Team」が主体となり、教員のアドバイスを受けながら、企画・実行しました。個人的な感想となりますが、本当に素晴らしかったです。この場をお借りして、感謝申し上げます。ありがとうございました。

練習船として役目を終えた鳥羽丸は、同窓会の皆様に見送られながら6月17日(月)17:00に池の浦を出港し、翌6月18日(火)08:00に予定通り、係留地の西伊豆安良里港へ到着しました。廻航時は雨と霧が出ていましたが、比較的

穏やかな航海でした。引き継ぎを行って鳥羽丸を下船する時は別れを惜しむように、いつまでも雨が降っていました。【図8】



図8 「廻航後の鳥羽丸」

4. おわりに

平成26年(2014)から一等航海士として約2年及び船長として約8年の約10年間を鳥羽丸(3代目)と過ごしてきました。30年前に設計されたので、現代にはそぐわない部分

もありました。しかし、航海計器や制御装置など換装し、約30年間にわたり練習船として最後の日まで、その役目を果たしてきました。小型ですが丈夫な船体を持ち、太平洋を航行する長距離航海でも安心して航行することができました。

鳥羽丸における一番の思い出は、平成29年(2017)航海コース5年生の練習船実習で初寄港した神戸港への実習航海です。大型練習船への乗船時機が変更となり、「4年生で5ヶ月の大型練習船実習を終えた学生にどのような実習が必要なのか。」を考えていました。鳥羽丸と大型練習船を比べると、その性能も装備も乗組員数も段違いです。そこで、鳥羽丸でなければ「体験できない」「感じるができない」実習とするため、鳥羽丸では長距離航海となる神戸港を目的地としました。

神戸港初寄港では同窓会の皆様から歓迎を受けました。神戸港停泊中には、学生主体で一般公開を実施しました。班長を中心に学生配置や必要な物品を考え準備し、実行しました。事前案内なしの平日09:00から11:30にも関わらず111名の見学者がありました。(保育園児から外国人観光者まで)初めての事でしたが、当時の5年生は最後まで実習をや

り遂げました。鳥羽丸でなければ得ることが出来なかったこと、航海士として必要なことは何か、などをこの実習で伝えられたと思います。新型コロナの影響で中断しておりますが、鳥羽丸代船の就航後は再開したいと思います。



図9「鳥羽丸代船イメージCG」

最後に、長年にわたり、練習船鳥羽丸へのご支援・ご協力まことにありがとうございました。感謝申し上げます。

鳥羽丸代船【図9】は、三菱重工マリタイムシステムズ株式会社(岡山県玉野市)にて建造中で、令和6年(2024)10月に進水、令和7年(2025)3月に引き渡される予定です。引き続き、皆様に愛される船となりますようお願いしております。

鳥羽商船高等専門学校ホームページ創基150周年特設サイトにて、鳥羽丸代船の進捗状況を公開しています。



<https://www.toba-cmt.ac.jp/150th/category/commemorative-project/new-tobamaru/>

Tobamaru Project Team

Tobamaru Project Team (以下「TPT」) 前代表の商船学科4年 航海コース 森田真永です。

TPTは商船学科16名、情報機械システム工学科5名の計21名で構成されており、次の2つの目的で活動しています。

- ①鳥羽丸の交代に関する記念行事の開催へ向けての企画検討
- ②在校生や卒業生の鳥羽商船に対する愛着や地域の人々の親しみをより深めること

2022(令和4)年度に結成して以来、大きな目標であった「鳥羽丸退役セレモニー」を、商船学科主催、TPT企画の形で2024年6月14日に無事開催することができました。ここでは同窓会誌のスペースをお借りして、当日の様子を紹介させていただきます。

前日まで梅雨入り前の微妙な天気が続いており、予定していたプログラム通りに開催できるか心配でしたが、午前授業が終わり設営に向かうと、雲が掃け、晴天の下鳥羽丸のマストには信号符号「JH3304」と「UW1」の旗がたなびいていました。

セレモニー本番に向けての緊張と、今日で最後という名残惜しさを感じながら設営作業をします。

会場の様子はYouTube Liveにより配信しました。

●退役セレモニー プログラム

クラス対抗!鳥羽丸クイズ大会

式典・校長のことは

- ・3代「鳥羽丸」の来歴紹介(商船学科長)
- ・学生代表のことは(航海コース実習生:永田 渚さん)
- ・船長あいさつ
- ・機関長あいさつ
- ・前機関長のことは

出港お見送り

ポンツーンには学内Wi-Fiの環境がないので、スマートフォンのテザリングによりライブ配信を行う計画でした。しかし、現場では30度を超える暑さにより、用意したスマートフォンがオーバーヒートして通信不能となるアクシデントが発生。日陰に移動させたり、みんなで扇いだりして冷まそうと努力しましたが解決せず、急きょ顧問の先生のスマートフォンを借りるなどし、予定時刻から5分遅れで放送を開始しました。

クラス対抗!鳥羽丸クイズ大会では、鳥羽丸にまつわるクイズを5問出題しました。「船首に「鳥羽丸」と船名が書かれている下には何が書かれているでしょう」という簡単な問題から、「累計航海



設営中の様子 (撮影:S1 服部 大翔)



クイズ大会配信の様子

距離は何海里でしょう」といった難しい問題まで、各教室からはたくさん回答をいただき盛り上がりました。

配信開始からクイズの途中まで、機材トラブルにより会場の音声が入らないトラブルもありましたが、司会メンバーの工夫に助けられました。結果は1位:商船学科3年(61,166点)、2位:情報機械システム工学科1年B組(16,830点)、3位:商船学科1年(6,130点)となり、入賞したクラスには当会謹製の鳥羽丸の号鐘をモチーフにしたトロフィーを贈呈しました。

式典では、船機長を始め鳥羽丸に関わりの深い方々からお言葉をいただきました。JMETSの大型練習船実習で実習中の6年生の下船期間が偶然にも重なり3名が駆けつけてくださりました。

セレモニーのフィナーレには、希望した全校学生の中から抽選で選ばれた35名の学生(うち商船学科20名、情報機械システム工学科13名、生産システム専攻科2名)を乗せて最後の航海へ出港、艇庫からは吹奏楽部の演奏も行われ、盛大にお見送りをしました。それに答えるような形で、鳥羽丸からは長音3声、デッキにいる全員で帽振れがされポンツーンを後にしました。

セレモニーの様子については、YouTubeにて公開しているのでぜひご覧ください。

当会としては今回 初めてライブ配信を行い、想定外のトラブルの発生や準備不足による不手際もありました。それでも、メンバーの協力や鳥羽丸乗組員および実習生、情報センターの脇坂先生のお力添えがあり、形にすることができました。

私たちTobamaru Project Teamでは、これからも在校生や卒業生方の鳥羽商船に対する愛着や、地域の人との親しみをより深めるための企画を検討、実施していきます。

その一環として、海学祭にあわせて開催している、「鳥羽丸写真コンテスト」を今年度も開催予定です。応募期間は10月8日~31日となっております。初代から建造中の4代までいずれかの鳥羽丸が被写体となっている作品が対象となっています。同窓生のみならず、貴重な作品のご応募をいただくと幸いです。

また、来年度初頭には鳥羽丸Welcomeセレモニー(仮称)を実施すべく、準備を進めていく所存です。

今後ともご支援、ご協力のほどよろしく申し上げます。



Tobamaru Project Team 各種SNS



式典配信の様子



出港の様子

事務局だより

平素は同窓会活動にご協力ありがとうございます。

年々猛暑の夏や異常気象の頻発での災害が日常になってきました。同窓の皆様方、ご家族の皆様方におかれましてもお体、充分にご自愛くださるようお願い申し上げます。

令和6年6月9日(日)名古屋名鉄グランドホテルに於いて今年と同窓会総会が開催されました。母校から古山雄一新校長、攻玉社同窓会から田村保文事務局長、森正昭監事と母校同窓生86名が出席し盛大に開催されました。

同窓会設立100周年の記念事業の一つとして同窓会百周年記念誌を発行します。担当の加塚副会長が現在同窓生の記事を募集し編集作業に入っています。この記念誌の発行にあたり有料の企業広告を募集しています。サイズは

- ・1ページ 80,000円
- ・1/2ページ60,000円
- ・1/4ページ40,000円
- ・1/8ページ20,000円

で募集します。後日該当と思われる同窓の皆様にご協力のご連絡をさせていただきますがその節はよろしく願いいたします。

同窓の皆様には母校から創基150周年のご寄付のお願い、そして同窓会からも同窓会設立100周年を兼ねた記念事業へのご寄付のお願いと、度重なるご協力の文をお送りし心苦しく思っていますが、この同窓会報は皆様と母校、そして鳥羽商船を卒業した私たち同窓生を繋ぎ、会報の到着が待ち焦がれる冊子づくりも目指します。

今後とも同窓会へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

西山 明君を偲んで —“思い出の鳥羽商船”制作記—

令和6年1月末、鳥羽商船同窓会伊勢志摩支部理事で前会計の西山明君(S50E)が亡くなりました。病名は特発性間質性肺炎という難病で4年の闘病生活でした。長い闘病生活お疲れさまでした。

彼との付き合いは2013年の春から始まりました。

ある日同窓会事務室に同窓会名簿の住所録を見せてもらえませんかかと彼が現れました。目的を尋ねると東日本大震災で宮城県の石巻市に住んでいる剣道部の後輩がいるので、彼のために有志に声をかけて支援したいとのことでした。

彼は定年を間近に控えて早期退職していましたが、同窓会事務局のメンバーに入っていたからには彼の責任感と率先して活動する姿勢は皆、強力な助っ人が入ってくれたと感謝していました。又持ち前の手先の器用さから日曜大工で多くの道具や整理棚も作ってくれました。同窓会本部事務局理事は皆が殆ど手弁当で事務局活動を行ってくれていますが、彼の働きは最後まで特筆すべきものでした。同窓会報の我ら鳥羽商船の編集、同窓会名簿の情報収集と広告募集、そして最後の大事な母校創立140周年記念で制作した船歌集「思い出の鳥羽商船」CD・DVDの企画から制作です。

船歌集制作のきっかけは、令和元年6月の同総会懇親会のアトラクションで古川昭一さん(S30E)のお孫さんたちの女性音楽グループに船歌を4~5曲演奏していただいたのが始まりでした。演奏をバックに参加者が大声をあげて懐かしい船歌を歌い大いに盛り上がりました。このアトラクションの企画者である彼は、演奏を楽しんだ仲間たちから「同窓会で船歌集を制作できないのか」と宿題を預かってきました。その頃、母校創立140周年の記念行事を計画中で、行事の一つとして船歌集の制作を加え、理事会で承認いただき、制作に取り掛かりました。彼は学生時代、寮で船歌の歌の会の集まりによく顔を出していたらしく、思い入れは人一倍強く持っていました。彼はこの船歌集の総合プロデューサーとして八面六臂の大活躍でした。制作にあたり過去に作られた船歌

集の情報を集めました但我々が企画した船歌集にはほど遠いものばかりで、今やらなければ歌い継がれてきた商船の歌が途絶えてしまうとの使命感にかられ、スタートしました。当初はCDだけの予定でしたが皆が集まった時にカラオケ風に映像と歌詞を見ながら歌えたら楽しいだろうという話になり、DVD制作に発展しました。どうせ作るならより良いものをということになり、収録する船歌の作詞、作曲者の著作権を確認し了解を得るのにかなりの時間と費用も要しましたが彼は無事クリアしました。船歌の主旋律の楽譜はあるけど伴奏を演奏するには伴奏用の楽譜と演奏者、曲の録音、そして聞けるプロの歌手も必要となり、予算がどんどん膨らみ資金を調達する必要が生じました。この作品は校歌、寮歌が入っていますが校歌、寮歌を他商船高専4校其々の作品にすれば他4校も制作費の負担に応じてくれるのではとの案が浮かび、全船協理事でもある菅沼会長から他4校の同窓会長にお願いし、4校の賛同を得て他4商船仕様の盤制作にも取り掛かりました。母校校歌、他校校歌、寮歌の録音は四日市の第一楽器のスタジオで録音しましたが、曲調、歌詞の確認は各同窓会の責任者にインターネットのズームアプリを使いながら録音しました。彼はこの難しい作業もほとんど一人でやり切りました。船歌の録音は伊勢市のシンフォニアホールを借り切り、プロの録音技術者と機材を使い、笠井幹夫代表が主宰する伊勢コーラスグループ「伊勢音楽劇場」の有志10名の歌唱で録音しました。このコーラスグループの皆さんはこの船歌集の制作に関わったことに非常に喜んで頂きました。そして映像入りのDVDの制作は母校制御情報工学科(当時3年)の安西琉偉君、山北峻佑君に応援をお願いし作りました。DVDの背景には同窓から思い出の写真を募集し、手探り状態から編集しました。他4校も同様に募集し、其々の学校に合わせた曲と映像作品に仕上げました。特に弓削商船は柏木同窓会長がこの制作に力を入れてくださり、母校創立120周年の記念品として大量にお配りいただきました。「思い出の鳥羽商船」船歌集制作の総合プロデューサー西山明君の指揮の元、伊勢志摩支部三井建次支部長、溝井昇さん、竹内大助さん、濱地安実さん、木下勝さん、事務局の糸川さん、そして山下文徳さん、菅沼延之同窓会長初め同窓生皆様、今は亡き古川昭一さん、川口心也さんの強い後押しの方で立派に完成することができました。この船歌集は彼なくしてできなかった作品でした。

この作品の制作途中に、彼は治療法が確立されていない指定難病の特発性間質性肺炎を発症しましたが、進行を遅らせる薬を処方されるだけの病院通いの本人の無念さは想像に難くありません。

又彼はセイラビリティ伊勢という障害者と健常者が一緒にヨットを体験できる団体にも参加し、サポート艇のエンジン整備、大工仕事で備品づくり、そしてヨット操船指導、又自分自身のレースへの参加は日本各地からオーストラリアまで参加して大活躍をしていました。母校情報機械システム工学科(当時4年)の濱口宝君(本誌P21寄稿)と共に視覚障害の人が参加できるヨットレースのアプリを作り、日本初のブラインドヨットレースを伊勢で開催しました。この開発したアプリは“B-SAM”と名付けられ、西山君の告別式当日に日本セーリング連盟から濱口君に感謝状が贈られました。

最晩年には奥様と小旅行を楽しみ、又同期の岡田さんの運転で東北までの旅行を楽しんでいました。

告別式では東日本震災に合わせた後輩の青田君、母校工業系の安西君、山北君、濱口君からも生前の厚情に感謝の弔電が来ておりました。彼は遺言でこの難病の治療に役立ててくださいと三重大学医学部に献体しました。西山明君は最後の最後まで生きた証を残すかのように頑張りぬきました。ご子息の御親族代表挨拶は海を愛した父上の生き様を参列した我々に立派に伝え、皆涙しました。

西山明君…ありがとう。お疲れさまでした。 合掌

鳥羽商船同窓会 事務局長 江崎隆夫(S44E)

船歌集「想い出の鳥羽商船」同窓会HPで視聴できます

同窓会へ3千円以上ご寄付いただいた方に謝礼としてお送りしています

鳥羽商船創立
140周年記念船歌集
想い出の鳥羽商船

我が胸の シーマンシップ いつまでも

パッケージの中はCDとDVDセットです

同窓会HPでバナーをクリックして頂きますと案内ページが開きます



サンプル映像を同窓会HPに公開しています。是非ご覧ください。



予告

10月8日 火曜日

第四代鳥羽丸 進水式挙行!!

詳細については、同窓会ホームページを見られたし!

来年の同窓会総会・懇親会は

令和7年6月15日 日曜日

母校・鳥羽国際ホテルに於いて開催します

スポンサー広告ご協賛企業

業務用加湿器のトップメーカー
Wetmaster

鳥羽の老舗割烹料理
大阪屋

(株)鳥羽ヤンマー
S44/E 江崎

iiiムロオ

鳥羽ビコーホテル 花真珠
女将 迫間まち(旧姓:山門)

医療法人友仁会
友仁山崎病院
理事長 塚原 幸三 S52E
人間ドックで早期発見

名古屋メッキ工業株式会社
NAGOYA PLATING CO.LTD
OUR PRIDE
「水と空気以外はめっきします」

自動販売機
ご紹介キャンペーン
株式会社フード・テクニカ
S55E 稲垣

ホームページスポンサー募集中!!
ホームページ・名簿のスポンサーを募集しています。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

学生募集のPR依頼

少子化の時代を迎え、義務教育以外の学校は皆、学生の確保に躍起になっています。特に大学は学生の全入学時代に突入し、一段と厳しさを増しています。将来に向け予断は許されず、学校としても学生募集のPRに励んでいます。つきましては、より優秀な学生に入学していただくため同窓会員の御協力を仰ぎたい所存です。学校に御連絡いただければ、A2版ポスター・学校案内冊子・学生募集要項をお送りしますので、下記宛に御連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。

独立行政法人 国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校

〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1-1 電話(0599)25-8404
ホームページアドレス <https://www.toba-cmt.ac.jp/> E-mail gakusei-nyushi@toba-cmt.ac.jp

◎書類請求(無料)は本校の学生課入試・支援係へ

同窓会事務局へのお問い合わせ、ご連絡、各お申し込みはメールにて承ります



info@tobashousen-dousoukai.com

